

ニテ矢面ニ立タサルヘカラサル満洲問題等ニ對スル中國側ノ要求ヲ合理化セシムル上ニ於テ效果アルヤモ計ラレスト思考ス右思附ノ儘御参考迄大臣、上海ニ轉電セリ

777 昭和5年12月28日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

王家楨は蔣・張間排日方針決定との情報が日
本陸軍より出でていると非難について

南京 発
本省 12月28日前着
第九五二號

廿七日本官王家楨ト種々雜談シタルカ其ノ際王ハ日本ノ新聞ハ張副司令ト蔣主席トノ間に排日ニ關スル話合ヲ爲シタルカ如ク傳ヘ居ル處斯ル事實絕對ニ無キノミナラス副司令ヨリモ自分ニ對シ二回迄電報ヲ以テ注意シ來レルニ依リ本件ニ關スル日本新聞記事ハ極メテ念入りニ研究シ右情報ノ主タル出所ハ寧ロ東京ニアルコトヲ確メタリ然ルニ或ル日

本人ハ自分ニ對シ右情報力參謀本部方面ヨリ出テタルモノナリト内話セルカ義ニ張作霖爆死事件ノ前ニモスル風説流布セラレタルコトアリタル爲奉天側ニテハ今回モスル謠言流布ノ裏ニハ何等魂膽アルニ非スヤトノ杞憂ヲ抱ク向モアル位ナリトテ暗ニ陸軍側ニテ何等策動ヲ爲シ居ルカ如キ口吻ヲ洩シタルニ付右ニ對シテハ本官ハ強ク之ヲ否定シ無責任ナル日本人ノ言ニ惑ハサルルカ如キコト無キ様充分説示セリ

其ノ結果王ハ實ハ自分モ日本現内閣ノ對華政策ハ充分好ク諒解シ居リ南京側ノ對日空氣モ頗ル良好ナル處前記副司令ヨリ電報ノ次第モアリ此ノ際前記ノ如キ謠言ハ之ヲ打消シ置ク必要アリト考へ特ニ王部長ノ記念週演説中ニ一言對日好感ノ趣旨ヲ挿入スル様取計ヒ置キタル次第ナリト釋明シ居タルカ右會談ニ依リ奉天側ニテハ今次ノ新聞記事ニ付テスラ極度ニ神經ヲ尖ラシ居ルコトヲ觀取セラレタリ
公使ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

支、北平、奉天ヘ轉電セリ

2 領事裁判権管轄問題

（上海臨時法院問題を含む）

778 昭和5年1月(2)日 在中国堀内臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

上海臨時法院問題に関する列国交渉委員協議
結果我が方へ隨時内報方にについて

北平 発
本省 1月2日後着

側交渉委員間ノ内協議ニハ日本領事等モ參加ヲ希望スル旨ヲ述ヘタル處各公使共主義上ハ異存無キモ南京ニテハ支那側ノ注意ヲ惹キ其ノ反対ヲ招ク虞アルニ付寧ロ特定ノ委員ヨリ隨時詳細日本側ヘ内報セシムルコト然ルヘントノ意見ニテ結局英國公使ヨリ「ヒュウレット」ヘ其ノ旨訓令スルコトナレリ（右ハ一日朝既ニ英國公使ヨリ電訓セル旨通知アリタリ）

上海、南京、奉天ヘ轉電セリ

第一號

三十一日夕六國會合（諾威代理公使參加）開催法院問題二付協議セリ

(一)先ツ南京發閣下宛電報第一三〇六號ノ交渉委員請訓ニ付

佛國公使ヨリ逐條審議ヲ提議シ各項目ニ付意見ノ交換ヲ爲シタルカ右結果ニ基キ専門委員ニ於テ同訓案ヲ起草シ一日夕更ニ會合審議ノ上直ニ發電案ニ付打合タリ

(二)次テ本官ヨリ日本ノ共同交渉參加方ニ關スル交渉ノ經緯ヲ説明シタル後貴電第三六五號ノ御趣旨ニ基キ今後我方ヨリ必要ニ應シ意見ヲ申出ツル場合モアルヘキニ付外國件

客年往電第一三七二號ノ(二)ニ關シ

第七號（極秘）

英國公使ハ治外法權問題ニ關シ王正廷ト交渉ヲ開始スル爲「タイチマン」「ベネット」兩書記官ヲ帶同シ二日當地發

三日塘沽ヨリ軍艦ニテ南京ニ直行（八日到着ノ豫定）スルコトトナレルニ付一日同公使ト懇談シ右交渉ニ關スル腹案ヲ尋ネタル處交渉開始方ニ關スル二十九日ノ王正廷ノ電報（往電第三號）及法權廢棄ノ「マンデート」ニ關スル意見上申（往電第六號）ニ對シテハ未タ本國政府ヨリ回訓ニ接セサル爲右王正廷ノ電報ニ對シテモ回答ヲ見合セ居ル次第ナルカ本國政府ヨリ何等力別段ノ訓令ニ接セサル限りハ過般ノ政府訓令（客年往電第一二一一號）ヲ基礎トシテ交渉ヲ試ミル積リナリト答ヘタルニ付右交渉ノ段取等ニ付テハ既ニ何等力支那側ト話合ツキ居ル次第ナリヤト尋ネタルニ同公使ハ之ヲ全然否認シ要スルニ先方ノ出方如何ニモ依ル次第ナルカ自分限リノ腹案トシテハ

(一)先ツ第一着ニ法權ノ漸進的廢棄ニ關シ原則ヲ極力主張シテ支那側ヲシテ之ヲ確認セシメタル後始メテ具體的問題ニ移ルコトトシ

(二)裁判事項ハ大別シテ民事刑事及人事ノ三種トナン得ヘキ處自分ハ差當リ民事ニ關シテノミ討議ノ權限アルコトヲ主張スヘク

(三)⁽²⁾次ニ撤廢後ノ保障問題ニ移ルヘキ順序ナルカ英國側トシ

内水航行等法權問題以外ニ亘ツテ交渉スル考ナキヤトノ本官ノ問ニ對シテハ今回ハ斯カル問題ニハ一切觸レサル考ナリト答ヘ要スルニ南京ニ於テ交渉ヲ開始シタル上ニアラサレハ滯在ノ期間モ豫定シ難キ次第ナルカ兎毛角當分「イングラム」ヲシテ館務ヲ代理セシムル積リナリト語レリ
上海、南京、奉天ヘ轉電セリ

780 昭和5年1月(24)日 在中國堀内公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

関係国代表者会合における臨時法院新協定お
よび付属交換公文の了承について

別電一 一月二十五日着在中国堀内公使館參事官より
幣原外務大臣宛第六八号

上海臨時法院新協定案

二 一月二十五日着在中国堀内公使館參事官より
幣原外務大臣宛第六九号

三 一月二十五日着在中国堀内公使館參事官より
幣原外務大臣宛第六九号

テハ支那法院ノ審理ニ對シテハ何等力支那側トシテハ參與ノ必要アル事ヲ主張シ（之）ニ對スル機關トシテハ「コ、ジャソヂ」ノ制度ヲ要求スル事トナルヘク之ニ對シ支那側ヨリハ恐ラク「アドバイザー」ノ案ヲ主張スベキ處結局ハ何等力妥協案ヲ見出シ得ヘキカト思ハル

四法權問題ハ極メテ専門的ノ事項ヲ含ムカ故ニ自分ト王正廷トノ間ニハ單ニ原則問題ノミヲ討議シ細目ニ亘ル専門的事項ニ關シテハ本國ヨリ法律家ヲ呼寄セ此ヲシテ支那側法律専門家トノ間ニ討議セシムヘキ旨ヲ提議スル考ナリ

(五)尙仲裁ニ關スル規定モ極メテ重要ナルニ付右ノ原則ハ是非討議スルノ要アリト思考スル
旨述ヘタルニ付本官ヨリ米國側ノ提議（客年往電第一三六八號）ニ關スル同公使ノ感想ヲ尋ネタルニ對シ同公使ハ外國法院ニ於ケル支那國法適用ノ問題ハ英國政府モ一九二七年ノ第二次覺書中ノ一項目ト爲シタル關係モアリ又政府ノ訓令中ニモ包含セラレ居ル次第ニ付一應提議シ見ル考ナルモ恐ラク支那側ニ於テ同意スルコトナカルヘク結局ハ「レコード」ニ留ムルノミニ終ルヘシト豫想セラルト答ヘ次ニ

(二)別電第六八號交換公文中ノ第二項共同租界法院ト佛國租

界法院トノ管轄關係ニ付佛國公使ハ本國政府ヨリ一九二六

年ノ協定ヲ維持スル旨ノ明文挿入方ヲ訓令セラレ居ルモ右

ニ對シテハ恐ラク支那側ニ於テハ異議ヲ挾ムヘキニ付斯カ

ル場合ニハ佛國ノ一方的宣言ニ依リ右ノ趣旨ヲ明カニスル

積リナリト說明セリ

(三)廿二日「ガースチン」發英國公使館着電報ニ依レハ廿一

日ノ會合ニ於テ外國側委員ハ本件「テキスト」ニ付各關係

國公使ニ請訓スヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シ支那側ニテハ頻リ

ニ調印ヲ急キ遲クトモ二日以内ニ確答ヲ得タキ旨強ク主張

シタルカ右請訓ノ必要ハ豫テ明カニシアル旨ヲ告ケテ支那

側ヲ押ヘタル趣ナル處關係國代表者ハ右「テキスト」ニ付

一應各本國政府ノ承諾ヲ求ムヘキ旨述ヘタリ

四本件解決文書調印ノ形式ニ付テハ各關係國公使ノ官氏名

ヲ記シ其ノ代理トシテ當該國委員署名スルコト然ルヘク

(但シ各委員ハ單ニ委員タル肩書ヲ附スルコトトシ領事等

ノ官名ヲ附セス)ト言フニ一致シ追テ「ジョイントレグ

ラム」接到ノ上ハ其ノ旨回訓中ニ明カニスルコトセリ

尙右「テキスト」ニ對スル外國側ノ「コンメント」ハ別電

ヲ拂フヘキモノトス

最高法院分院ノ判決、決定及解釋ハ支那法律ニ依リ支那

最高法院ニ控訴スルコトヲ得

第三條 現在支那法院ニ於テ觀審又ハ會審ノ爲領事代表又

ハ領事官憲ニ於テ出廷スル舊習ハ本協定ニ基キ設立セラ

ルル法院ニ於テハ廢止セラルヘシ

第四條 工部局警察又ハ司法警察ニ依リ逮捕セラレタルモ

ノハ休日ヲ除キ二十四時間内ニ審理ノ爲本協定ニ基キ設

立セラル法院ニ送致セラルヘク然ラサル時ハ釋放セラ

ルヘシ

第五條 本協定ニ基キ設立セラルヘキ法院ハ夫々支那政府

ノ任命ニ係ル一定數ノ檢察官ヲ有スヘク右檢察官ハ右法

廷ノ管轄内ニ於テ檢屍及檢驗ヲナシ其ノ他檢察官ハ共同

租界工部局警察若ハ關係當事者力既ニ訴追ヲナシタル場

合ノ外ハ

支那刑法第百五條乃至百八十六條ノ適用アル凡テノ事件

ニ付支那ノ法律ニ依リ權能ヲ執行スヘシ但シ檢察官ノ行

フ豫審ハ凡テ公開セラレ又被告ノ辯護人ハ出廷及發言ノ

權利ヲ有スルモノトス

第七〇號ノ通

別電ト共ニ上海、南京、奉天ニ轉電セリ

(別電一)

北平 本省 1月25日前着 発

第六七號(至急)

上海共同租界支那裁判所ニ關スル協定案

第一條 本協定實施ノ日以前上海共同租界ニ一ノ支那法院

ヲ設置スルコトニ特別ノ關係ヲ有スル一切ノ舊規則協定

交換公文等ハ廢止セラルヘシ

第二條 支那政府ハ司法ニ關スル支那法令ニ依リ且本協定

ノ規定スル所ニ從ヒ上海共同租界ニ一ノ地方法院及一ノ

高級法院分院ヲ設置スヘシ

一切ノ實體上及手續上ノ支那法令ニシテ現ニ施行中ノモ

ノ又ハ今後合法ニ制定公布セラルヘキモノハ前記法院ニ

於テ之ヲ適用シ得ヘン但シ共同租界土地章程及細則(右

ハ支那政府ニ於テ之ヲ採用公布スルニ至ル迄適用セラル

ヘキモノトス)並ニ本協定ノ規定ニ對シテモ適當ノ考慮

法院ノ管轄内ニ生スル右以外ノ事件ハ工部局警察若ハ關係當事者ニ於テ訴追スルモノトス檢察官ハ工部局警察若ハ關係當事者ノ訴追ニ係ル凡ユル刑事々件ニ付法廷ニ於テ意見ヲ發表スルノ權利ヲ有スルモノトス

第六條 凡テノ裁判手續書類即チ召喚狀、令狀、執行命令書等ハ協定ニ基キ設立セラルル法院ノ判事ノ署名ニ依リ

初メテ有效ナルモノトス右署名ヲ俟テ司法警察官ニ依リ

或ハ左ニ規定スルカ如ク法院ノ執達吏ニ依リテ送達若ハ

執行セラルヘキモノトス

共同租界内ニ於テ逮捕セラレタルモノハ被告ノ辯護人ノ出廷及發言ノ權ヲ有スル法院ニ於ケル豫審ヲ經スシテ租

界外ノ官憲ニ引渡サルルコトナカルヘシ但シ他ノ新式法院ノ要求ニ基キ右法院ニ於テ右被告力同一犯人タルコト

立證セラレタル後之ヲ引渡ス場合ハ例外トス法院ノ判決、

決定及解釋ハ凡テ該法院ノ有效ナル裁判手續ノ結果最終

的ニ確定次第速ニ之ヲ執行スヘキモノトス必要アル場合

ニハ工部局警察ハ要求ニ應シ可能ナル範圍ノ助力ヲナス

ヘシ

法院ノ執達吏ハ各法院長ニ依リテ任命セラルヘク其ノ職

務ハ民事事件ニ關シテハ一切ノ召喚状ヲ送達シ且其ノ他ノ法院文書ヲ傳達スルニアルモノトス民事事件ノ判決執行ニ當リテハ執達吏ハ司法警察官ヲ同伴スルモノトス
⁽³⁾法院ノ司法警察官員ハ工部局ノ推薦ニ基キ高等法院分院々長ニ依リ任命セラルヘキ理由由ヲ明示シテ右院長ニ依リ罷免セラルコトアルヘシ又司法警察官員ノ解任ハ理由アルヘキモノトス

第七條 上海共同租界ニ現存スル支那法院ニ附屬セル民事留置場及女囚監獄ハ本協定ニ基キ設置セラルヘキ法院ニ移サルヘク且支那官憲ニ依リ監督管理セラルヘシ
 共同租界ニ現存スル支那法院ニ附屬セル監獄ニ服役中ナル凡テノ囚人及本協定ニ基キ設立セラルヘキ法院ニ依リ刑ノ宣告ヲ受ケタル囚人ハ新法院ノ裁量ニ依リ右租界内監獄又ハ租界外支那監獄ニ服役スヘキモノトス尤モ警察犯規則、土地章程及細則ニ對スル違犯者並ニ審理ヲ受クヘキ逮捕中ノ者ハ其ノ留置期間ヲ租界内ニテ過スヘシ共

本條ニ依リ前記法院ニ於テ業務ニ從事スル資格ヲ有スル外國人辯護士ハ司法部ニ對シ辯護士免狀ノ下付ヲ申請スヘク且懲戒處分ニ關スル規定ヲ含ム辯護士ニ適用セラルヘキ支那法令ニ從フヘキモノトス

第九條 支那政府ノ任命ニ係ル二名及本協定調印國政府ノ任命ニ係ル二名ヨリ成ル四名ノ常設代表者設置セラルヘク右代表者ハ高等法院分院長又ハ調印國官憲ヨリ移牒アル時ハ共同シテ本協定ノ解釋又ハ適用ニ關スル意見ノ相違ヲ調停スルニ努ムルモノトス但シ其ノ報告ハ相互ノ承諾アル場合ヲ除クノ外兩當事者ニ對シ何等ノ拘束力ナカルヘク又法院ノ判決、決定、口頭判決又ハ命令ハ其ノ儘前記代表者ノ考慮ニ附セラルコトナキモノト了解セラルヘシ

第十條 本協定及附屬公文ハ千九三〇年月日ヨリ效力ヲ發生シ爾後三年間有效ナルモノトス但シ關係國ノ相互承諾アルニ於テハ更ニ期間ヲ延長シ得ヘシ

同租界内監獄ハ出來得ル限り支那監獄規則ニ從ヒ經理セラルヘク且支那司法官憲ノ任命スル官吏ニ依リ時々視察ヲ受クヘキモノトス

本協定ニ基キ設立セラルル法院ニ依リ死刑ヲ宣告セラレタルモノハ右宣告執行ノ爲租界外支那官憲ノ下ニ送致セラルヘシ

第八條 合法ノ資格ヲ有スル外國人辯護士ハ外國人カ一方ノ當事者タル一切ノ事件ニ付本協定ニ基キ設立セラルル法院ニ於テ業務ニ從事スルコトヲ許容セラルヘシ尤モ右外國人辯護士ハ外國人當事者ノミヲ代理シ得ルモノトス
⁽⁴⁾工部局モ亦同局力原告又ハ被害者タル場合又ハ工部局警察力訴追者タル場合ニ於ケル一切ノ審理手續ニ付合法資格アル支那人又ハ外國人辯護士ニ依リ同様ノ方法ニ於テ代理セラルヘシ
 工部局ニ於テ租界ノ利益ニ關スルト認ムル其ノ他ノ事件又ハ審理手續ニ付テハ同局ハ合法資格アル支那人又ハ外國人辯護士ニ依リ代理セラルヘク右辯護士ハ審理中法廷ニ對シ其ノ意見ヲ書面ニテ提出シ得ヘク且必要ト思考スル時ハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ抗告スルコトヲ得

第六八號(至急)
 甲、支那側委員宛外國側委員往翰
 本日調印シタル上海共同租界内ニ地方法院及高等法院分院設置方ニ關スル協定ニ關シ我等ハ左ノ諸點ニ關スル我等ノ諒解ニ對シ貴方委員ノ確認ヲ要求スルノ光榮ヲ有ス

一、本協定ニ依リ設置セラルル法院ハ上海共同租界内ニ於ケル民事事件ノミナラス警察犯及檢屍ヲモ管轄スルモノト諒解セラルヘシ但シ右法院ノ人ニ對スル管轄ハ支那法院ノ管轄ト同様ナルヘク且地域ニ對スル管轄ハ(イ)租界外ニ於ケル外國人ノ私有財產ニ付發生スル混合刑事案件(ロ)租界ヲ圍繞スル地域ニ於テ發生スル混合民事事件ヲ除ク外上海共同租界ニ現存スル支那法院ノ管轄ト同様ナルヘシ

二、支那政府及關係官憲トノ間ニ確定的協定成立スル迄ハ共同租界ニ現存スル支那法院及佛租界ニアル法院ノ相

互管轄ニ關スル現行慣例ヲ蹈襲スヘキモノト諒解セラルヘシ

三、出來得ル限り工部局ハ本協定ニ基キ設置セラルル法院

ノ司法警察官員ニハ支那人ヲ推薦スヘキモノト諒解セラルヘシ且又本協定第六條ニ基キ高等法院分院長ニ依

リ任命セラルル司法警察官憲中ヨリ工部局ノ指名スル

一人ハ右法院長ヨリ該法院内ニ事務室ヲ與ヘラレ且該

條ノ規定ニ基キ送達又ハ執行ノ目的ヲ以テ召喚狀、命令書、令狀及判決書等ノ如キ右法院ノ總テノ訴訟手續ヲ記帳スルモノト諒解セラルヘシ

四、本協定ノ規定スル法院ノ設置ハ共同租界ニ現存スル支那法院及夫レ以前ノ法院ニ依リ下サレタル判決ノ效力ニ毫モ影響無キモノト諒解セラルヘク右判決ハ控訴ノ手續カ適法ニ執行セラレ又ハ留保セラレタル場合ヲ除キ最終且有效ナルモノナリト認メラルヘシ

且又本協定ニ基キ設置セラルル法院ノ判決ハ效力ニ於テハ他ノ總テノ支那裁判所ノ判決ト同等ナルモノト了解セラルヘシ
五、本協定ハ毫モ租界外道路ノ地位ニ關スル將來ノ交渉ニ影響シ又ハ之ヲ妨ケサルモノト了解セラルヘシ

六、租界ニ現存スル支那法院ノ「クレジット」トシテ現ニ

中國銀行ニ預入セラレ居ル六萬弗ノ額ハ本協定ニ依リ設置セラルル新法院ノ「クレジット」トシテ支那政府ニ於テ之ヲ維持スヘキモノト了解セラルヘシ
七、本協定ノ下ニ設置セラルル法院ハ其ノ沒收スル物件ヲ没收阿片並ニ其ノ吸煙調合器具ハ三ヶ月毎ニ共同租界内ニ於テ公然燒棄セラルヘク且又工部局ハ沒收武器ノ處分ニ關シ何等意見アラハ之ヲ兩法院長ヲ通シテ司法部ニ傳達スルヲ得ルモノト了解セラルヘシ

八、本協定ノ效力發生ト同時ニ共同租界内ニ現存スル支那法院ニ繫屬スル事件ハ總テ本協定ニ基キ設立セラルル法院ニ於テ現行裁判手續ニ從ヒ取計ハルモノト了解セラルヘク尤モ混合事件ノ手續ハ出來得ル限り引繼時ニ於ケル過程ヨリ續行シ十二月以内ニ完結セラルヘシ但シ右期限ハ事情已ムヲ得サル場合ニハ法院ノ裁量ニ依リ延長セラルヘシ

乙、外國側委員宛支那側委員來翰

上海共同租界内ニ地方法院及高等法院分院設置方ニ關シ本

日調印シタル協定ニ關シ貴翰ヲ以テ左記事項ヲ確認アリタキ旨御申越ノ趣敬承（八項目挿入ノコト）依テ我等ハ右各項ノ了解ヲ確認スルノ光榮ヲ有ス云々

細則ニ影響ヲ及ホシ若ハ何等其ノ效力ヲ失ハシムルカ如キモノ又ハ同區域内ノ安寧秩序ヲ維持スルニ有害ナリト認メラルカ如キモノヲ共同租界内ニ於テ施行スルコトニ反対スルノ權利ヲ留保ス

編注 「交換公文」と書き込みあり。

（別電三）

一方的宣言

北平 1月25日後着

第六九号（至急）

本省 1月24日後發

第七〇號（至急）

〔⁽¹⁾〕協定ニ關スル「コメント」

上海共同租界内ニ新ニ支那司法制度ヲ設置スルコトニ關スル本日調印ノ協定ニ關シ我等關係國代表者ハ本協定ハ關係

諸國ト支那トノ間ニ現存スル條約ニ依リ關係諸國並其ノ臣民ニ對シ保障セラレタル權利ニ何等影響ヲ及ホシ又ハ斯ル

權利ヲ無効ナラシムルカ如キコトナカルヘキヲ指摘セント

件

欲ス

依テ我等茲ニ右ノ點ニ關シ我等ノ完全ナル權利ヲ留保ス
我等ハ更ニ將來ノ支那法律ニシテ共同租界ノ土地章程又ハ

第五條中ノ諸規定ハ檢察官ノ職權ヲ制限シ居リ右ハ御訓令ノ範圍内ニ在ルヤニ認メラル處最後ノ文句ニ現レタル規定ハ支那側ノ強ク主張セル處ニシテ恐ラク今後

建徵收ニ改メタリ

一、現在政府ノ機關ハ實際ノ必要以上ニ設置セラレ居ルヲ以テ適度ノ整理ヲ爲スノ要アリ之ニ依リ政費ノ約三分ノ一ハ節約シ得ヘシ先ツ自分ハ總司令部ノ經費ノ半分ヲ削リ三箇月後ニハ總司令部ヲ完全ニ撤廢スルコトニ決定セリ政府ノ各機關モ此ノ方針ニ依リ緊縮ヲ實行セムトス

上海、北平、奉天へ轉電セリ

782 昭和5年2月7日 幣原外務大臣より
在上海重光總領事宛（電報）

上海臨時法院新協定の事實上の適用につき考
慮中のところ中國側態度取調べ方訓令

本省 2月7日後4時20分発

第三號

臨時法院改組交渉ニ對スル我方參加問題ハ御承知ノ經緯ニテ其儘トナリ居ル處最近關係國ト支那國トノ協定モ大体纏りタルカ本件ニ關スル我方對策トシテハ新協定案ト大体同一趣旨ノ單獨協定ヲ日支間ニ取極ムルコトモ一方方法ナルモ

合我方主張ノ根據薄弱ナルヲ免レサルヘキノミナラス將來上海法院ノ改組乃至撤廢等ノ場合ニ於テ我方ニ發言權ヲ得難キ懸念アルヤニ思ハルニ付結局日本ハ今回ノ新協定ニ其ノ儘「アドヒヤ」スル趣旨ノ簡單ナル取極ヲナスコト最モ時宜ニ適セルヤニ思考セラル何等御参考迄

貴電第一八三號ニ閔シ
第五四號（至急）

上海法院問題ニ付テハ我方ハ暫ク現狀ノ儘推移シ事實上新協定ノ適用ヲ認ムルコトトシ新協定ニ對スル加入問題ハ之ヲ治外法權問題商議ノ際ニ讓ルコトト為シ度キ所存ナリ（新協定承認ニ關スル取極締結ヲ一般法權問題ノ商議ヨリ先キニスルヤ否ヤハ更ニ考究ヲ要ス）從テ當分ノ間ハ右趣旨ニテ措置アリ度ク尙邦人辯護士ノ登錄ハ支那側ノ出方ヲ試験スル一方法トモナルヘキニ付之ヲ試マシメラレ度シ

問題は治外法權問題商議の際に譲る旨訓令

付記一 三月十三日付有田亞細亞局長より在中国重

光臨時代理公使宛書翰（半公信）

上海臨時法院新協定に非參加の場合の利害につき問合せ

二 三月二十八日付在中国重光臨時代理公使よ

り有田亞細亞局長宛書翰（半公信）

上海臨時法院新協定の我が方への利害につき回答

本省 3月13日前11時30分発

此際右ノ如キ協定ヲ締結セス現狀ノ儘ニテ推移シ新協定成立ノ上ハ事實上新協定ノ適用ヲ受クルコトハスル方適當ナリヤニモ思惟セラル處右ニ對スル支那側ノ態度ノ豫測並貴見御回電相成度シ

北京及南京へ轉電アリ度シ

783 昭和5年2月14日 在中國堀内、公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

上海臨時法院新協定を支持する趣旨の簡単な
取極をなすべしとの意見具申

北平 発
本省 2月14日前着

第一一號

上海宛貴電第三二號ニ關シ（法院改組協定ニ關スル件）新協定案ト大体同趣旨ノ單獨協定ヲ日支間ニ取極ムルコトハ支那側ヨリ法權問題ノ懸引上種々ノ註文ヲ出ス虞ナキニ非スト思考セラル處サレハトテ此ノ際何等ノ協定ヲモ締結セス我方ニ於テ事實上新協定ノ適用ヲ受クルコトナス場合ニハ今後日本人關係事件ニ付テ問題ヲ生スルカ如キ場

ヲ研究スルノ必要ヲ認メ前記往電第三二號ヲ以テ出先ノ意見問合セタル次第ニ有之候然ルニ電文盡サアルトコロ有リ

見問合セタル次第ニ有之候然ルニ電文盡サアルトコロ有リ
ント見エ貴地並北京ヨリノ返電モ實ハ當方ノ期待シ居リシ

ポイントニシツクリ合致セサリシ感有ル次第ナルニ就テハ

新法院ニ參加セサレハ如何ナル不利益アリヤ又參加スレハ

如何ナル利益アリヤ新協定ヲ實際的的事情ニ照シ御研究ノ上

小生参考迄ニ具体的ニ御回示相成度候小生ノ私見ヲ申上ク

レハ本件協定ニ獨塊露等力形式的ニ參加シ若ハ別ニ同様ノ

協定ヲ結フヤ否ヤハ頗ル疑問ニシテ恐ラク如此措置ニハ出

テサルコトト思考セラルルトコロ右ノ如キ場合支那政府若ハ英米佛等ノ協定調印國力新法院ヲシテ上海共同租界内居住ノ獨塊露人等ノ關係事件ヲ取扱シメス他ノ支那裁判所

（租界外ニ在リト想像セラル）ノ管轄トスルモノトハ思ハ

レス要スルニ一度新協定ニ基ク法院ニシテ成立セハ右ハ租

界在住外國人ノ一律ニ利用スルモノトナルヘキコト自然ニ

シテ支那側ニ於テモ之ヲ拒絶スルカ如キコト無カルヘク其

他協定ノ各條ニツキ考フルモ日本力之ニ參加セストモ甚シ

キ不利不便ヲ感スルカ如キモノハ殆ント無之ヤニ存セラレ

候然シ之レハ現地ニ居ラサル小生トシテハ確信無キコト勿

論ノ次第ニ付特ニ貴兄再度ノ意見開示ヲ希望スル次第ニ有之候 敬具

昭和五年三月十三日

外務省亞細亞局長

在上海

臨時代理公使重光葵殿

（付記二）

拜啓貴官益々御清祥奉賀候陳者三月十三日附御書面ヲ以テ臨時法院改組協定問題ニ關シ御照會ノ趣了承本件協定ハ協定不參加國ノ國民ニ不利益ナル待遇ヲ與フルモノニ非サル

ヲ以テ支那側サヘ正當ニ右規定ヲ運用スレハ我方國民ニ於テ不當ナル取扱ヲ受クル懸念ナキコト貴見ノ通りナレトモ

支那力當初ヨリ我方ヲ英米佛等ノ諸國ト區別シテ取扱ヒタル行懸リヨリ推シテ將來外交部長其ノ他ノ協定關係者カ其

ノ地位ヲ去ルカ如キコトアル場合ニ於テ我方カ右協定ノ當事者ニアラス且別ニ日支間ニ同様ノ取極ナキヲ理由トシテ

我方國民ヲ對等條約國民又ハ無條約國民並ニ取扱ハントス

ルコト萬々無之トハ謂ヒ難シ假リニ支那側ニ於テ我方國民

定ヲ爲シテヨリ今日マテ同様ノ事件ハ遂ニ法院ニテ裁判ヲ受クルコト能ハサルニ至リタリ元來法院側ノ言分ハDeputyノ出廷ヲ拒ムト謂フニ在リテ我方ニ於テ

Deputyナクシテ審理スルコトヲ承認セハ何時ニテモ之ニ應スルト謂フ態度ナリシコト其ノ後右手續ニ依リ

一二ノ事件カ裁判セラレタルニ徵シ明カナルノミナラス新協定ニテハ所謂會審ノ制度ヲ全然廢止シ支那人被

告ノ事件ニハ一律ニDeputyヲ出サヌコトトナレルモノナレハ實ハ問題カ消滅ニ歸シタルモノト考ヘテ可然

キモノノ如キモ支那側ニ於テ訴訟ヲ從來通リ「サスペンド」スルコトモアリ得サルニハ非ス此ノ點ニ付テハ

我方辯護士ニ於テ四月一日ヲ待チ訴訟ヲ提起スルコトニ依リテ支那側ノ態度ヲ檢スルコトニ手筈ヲ定メ居レ

テ獨塊等ノ諸國カ支那ト本件ニ關スル取極ヲ爲スカ如キコトハ始メヨリ想像シ難キ所ナリ臨時法院改組協定問題ニ付差シ當リ我方ノ利害ニ關係アル事項念ノ爲左ニ解説致シ度シ一、日支通商條約改訂期到来ト共ニ臨時法院カ帝國臣民ノ

原告タル事件ノ審理ヲ受付クルモ之ヲ裁判セストノ決

二、當地居住我方辯護士ハ協定ノ定ムル所ニ依リ司法院二免狀ノ申請ヲ爲シ更ニ臨時法院ニ登錄スルコトニ依リテ從來通り辯護ヲ爲シ得ルヤニ付懸念ヲ有シ居レル力不取敢願書ヲ司法院ニ提出シ之マタ支那側ノ態度ヲ檢

以上電報補足旁々及回答候。敬具。

昭和五年三月二十八日

重光 葵

亞細亞局長 有田 八郎殿

785 昭和5年3月15日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海臨時法院新協定の実質的運用につき王外
交部長との会談について

上 海 発
本省 3月15日後着

公第三〇九號(極秘)

十二日ノ會見ノ際王正廷ハ關稅問題ニ次テ更ニ交渉事項ア
リ英米ハ右交渉既ニ大分進捗セリトテ暗ニ治外法權問題ヲ
仄メカシタルニ依リ本官ヨリ臨時法院ノ交渉ハ何時ニテモ
始メテ然ルヘキ旨答ヘタルニ王ハ臨時法院ノ問題ハ既ニ解
決済ニテ今後交渉スヘキ事項ナキ様思ヒ居レリトノコトナ
リシニ付更ニ本官ヨリ貴下ハ本官ニ對シ日本トハ別個ニ商
議スルコトヲ約束セラレタル筈ナリ又日本カ他國ト支那ト

786 昭和5年3月25日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

上海臨時法院新協定実施に際し差別的待遇な
きよう法權問題解決の際何らかの取極必要と
の意見具申

上 海 発
本省 3月25日後着

公第三三八號(極秘)

貴電公第五四號ニ關シ
上海臨時法院問題ニ付テハ支那側ハ御承知ノ通我方ヲ英米
佛等諸國ト區別シテ取扱ヒタル行懸上我方ニ於テ取極ニ付
英米佛等ト同一ノ利益ヲ受クルコトヲ支那側ヲシテ承認セ
シムルハ困難ナリト思ハレタルニ依リ王正廷カ曩ニ我方ト
單獨交渉ヲ爲スヘキコトヲ約シタルヲ利用シテ之ヲ以テ迫
リツツアル次第ナルカ廿四日王部長ト會見ノ際「法院問題
ニ付テハ豫テヨリ我方ト單獨ニ交渉ヲ行フコトヲ約束セラ
レタルカ右單獨交渉ハ別トシテ英米佛其ノ他三國ト協定ヲ
遂ケラレタル此ノ際日本人ニ對シテ他國人ト異リタルカ又
ハ之ヨリモ惡シキ取扱ヲ爲スコトナカルヘシト思考セラル
ルカ如何」ト尋ネタル處「日本人ヲ「デスクリミネート」
スル等ノ考ハ毛頭ナシ而シテ法院問題ハ法權問題討議解決
ノ際日本人ハ上海ニ於テ外國人ト異リタル待遇ヲ受クルコ
トナシトノ一項ヲ挿入スレハ可ナラスヤ」トノ趣旨ヲ述ヘ
タルヲ以テ「右ノ考方ハ自分ニハ「アツピール」セス法院
問題ハ外國側トモ法權問題ト別個ニ取扱ヒタルモノナルニ
依リ我方トモ同様ノ交渉ニ依ルカ順序ナルヘシ」ト述ヘ置
キタリ

ノ交渉ニ依リ何等束縛セラレサルヘキハ當然ノコトナリト
述ヘタル處右約束ハ好ク記憶シ居レリトノコトナリシニ依
リ本官ヨリ日本ハ徒ニ理窟ニ走リ無益ニ事態ヲ紛糾スル力
如キ態度ニ出ツルコトナシ但シ右貴下ノ約束ハ之ヲ實行セ
サルヘカラス就テハ何等力實際方法ヲ以テ本件ニ關スル日
支ノ關係ヲ律シ得ル案ヲ貴方ニ於テ案出スル様請フト述ヘ
タル處王ハ右考慮スヘシト答ヘタリ
貴電第五四號ハ本件會談後ニ到着セル次第ナルカ本官ハ兎
ニ角王ノ約束ヲ楯トシテ實質上他國ト同様ノ地位ヲ確保ス
ル様努力スル積リナリ

上海特別区法院の外国人関係訴訟の審理振に

関する新聞報について

公信第五三四號

昭和五年四月十日

(4月19日接受)

在上海

總領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

特區地方法院ノ外國人關係訴案ノ審理振ニ關スル新聞

記事ノ件

四月十日ノ當地支那新聞ハ當地特區地方法院ハ同九日同法院改組後最初ノ外國人關係訴案ノ審理ヲ爲シタルカ當日ハ英、米側商社ノ訴ニ係ル「貨物代金追償案」數件ヲ四個ノ民事法庭ニ於テ開審シタル處原告ノ辯護士ハ外國人ニシテ何レモ通譯ヲ伴ヒ出廷シ辯論ヲ譯述セシメタル爲判事トノ間ニ何等ノ蟠りナク極メテ秩序佳ク進行シタル趣ナリ尙判事ハ單獨ニ審問スルモ干渉スルモノナキヲ以テ從來ノ如ク謂レナキ爭執ヲ發生シ案件ノ完決ヲ遷延スルコトナカルヘシ云々ト報シ居レリ改組後ノ成績ニ付テハ尙今後ノ實際ニ微スルノ要アルモ不取敢右報道ノ儘何等御参考迄ニ切抜添

付報告ス

信寫送付先 北平 南京

幣原外務大臣より
在天津岡本總領事宛

788 昭和5年4月12日 在天津

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

二機密第六七號

昭和五年四月十二日

中國人を被告とする民事訴訟費徵收默認方訓令

在天津總領事 岡本 武三殿

支那裁判所ニ於テ訴訟費徵收ニ關スル件

本年二月二十二日附貴信機密第一六〇号ニ關シ貴地ニ於テハ大正九年十二月六日附貴館來信第六一〇号ノ通り日本人ノ訴訟費前納免除ニ關スル我方要求ニ對シ支那側承認シ爾後貴地ニ於ケル慣行トモナリ居レル關係モアルニ付今回貴官ノ支那側ニ對シ為シタル抗議ハ機宜ノ措置ナリト雖本來支那ニ在ル帝國臣民力支那人ヲ被告トシ民事訴訟ヲ提起スル場合其ノ管轄權ノ支那官憲ニ屬スル以上訴訟手續ニ於テ支那ノ法制ニ從ハシメラルハ止ムヲ得ス、訴訟費用ノ豫

納ニ付テモ日本人原告ニ差別待遇ヲ為サヘル限り貴地ニ於テモ支那側法制ハ之ヲ認メ差支無キ次第ナル付貴地從來ノ慣行ニ從ヒ抗納スルニ於テハ事件ノ進捗ヲ見ス原告側ニ不利ナルニ於テハ事件豫納ヲ默認スルコト、致シ度シ

本信寫送付先 在支公使、北平、南京、濟南

青島、漢口、廣東、奉天

(欄外記入)

本件ニ關シテハ大正十年八月二十二日在汕頭打田領事代理ヨリノ請訓ニ對シ別紙^{〔金馬〕}ノ通り回答シ居レリ

789 昭和5年4月16日 在天津岡本總領事より
幣原外務大臣宛

華洋上訴案件に対し中國司法部では中國法令
に照らし各省法院で受理する様通令について

公信第二九五號

昭和五年四月十六日

(4月25日接受)

本信寫送附先 在支代理公使 上海 南京

北平

奉天最高法院東北分院長孔明炎の上訴管轄に
関する布告について

本第一二六號

(5月17日接受)

昭和五年五月一日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孔最法院東北分院長ノ布告ニ關スル件

今般奉天最高法院東北分院長孔明炎ハ東北五省區ニ於ケル
終審裁判權ノ歸屬ニ關シ大要左ノ如キ布告ヲ管内各省及特
別區ニ通令セル趣ナリ

本院ノ管轄區域ハ奉天、吉林、黑龍江熱河及東省特別區
ノ五省區ニシテ該省區内高等法院ノ判決ニ對スル上訴ハ

當然本院ニ於テ之ヲ受理スルコトハナリ居ル處訴訟當事
者中徃々之ヲ辦ヘス南京最高法院ニ向ヒ上訴ヲ提出スル
者アリ爲ニ本院トノ文書往復ニ時日ヲ要シ却ソテ訴訟當
事者ニトリ不利ヲ來ス虞アルニ依リ本院ハ曩ニ司法院ニ
向ヒ今後最高法院ニ提起セル本院管内ノ上訴事件ハ何レ
モ之ヲ本院ニ移送シ審理セシムル様最高法院ニ訓令方電

請シ置キタル處今般司法院ヨリ之ヲ許可シ最高法院ニ命
令セル旨回訓アリタリ依テ今後本院管内ニ於ケル上訴ハ
原審裁判所又ハ本院ニ之ヲ提起スヘシ云々^{云々}
右報告ス

本信寫付先

在北平公使館 上海 奉天 哈爾賓 吉林 各總領事
滿州里領事 関東廳

791 昭和5年5月28日 在上海重光總領事より
幣原外務大臣宛

上海特別区地方法院に於ける日本人を被告と

する訴訟受理について

機密第七四號

昭和五年五月二十八日

在上海

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

總領事 重光 葵〔印〕
上海特區地方法院ニ於テ邦人ヲ被告トスル訴訟受理
ニ關シ報告ノ件

(6月16日接受)

上海江西路二三五號田岡洋行主藤井信次ハ支那人陶禹門ナルモノニ銀貳百五十兩ノ債務ヲ有シ元利未済ノタメ民國十七年十二月十九日別紙(省略)甲號寫民事訴狀ノ通り上海臨時法院ニ起訴セラレタル處當時當館ハ法院ニ對シテ邦人ヲ被告トル訴訟審理ノ不當ナル所以ヲ指摘シテ一應ノ注意ヲ喚起スルト同時ニ本人ニ對シテハ右民事訴訟ノ呼出ニ應スル必要ナキ旨ヲ論シ爾來本件ハ有耶無耶トナリ居タルニ今般上海特區地方法院ハ右民事訴狀ニ基キ別紙(省略)乙號寫ノ通り本月十九日附ヲ以テ全二十六日本人ノ許ニ呼出狀ヲ送達シ來レリ依テ本二十八日由中副領事ヲ特區地方法院ニ派シ院長楊肇煥ニ對シテ先ツ事件ヲ受理シタル事情及邦人ヲ被告トシテ提起スルコノ種不當ノ訴訟ニ對スル法院ノ態度ヲ質問シタル上條約問題ニ關スル日支兩國間ノ論爭及經(省略)連殊ニ客年四月芳澤公使對王部長間ニ商議セラレタル彼我ノ了解等ニタルスル事情ヲ説明シ法院ハコレ等ノ點ヲ一應考量ニ容レタル上本件ヲ「テークアップ」シタルモノナリヤト問質サシアル事件多數アルニ依リコレヲ一律整理スルノ目的ヲ以テ過般係官ニ之レカ整理ヲ命シ置キタルカ本件ノ如キモ右ノ

件

結果ニ依ルモノト認メラル本來條約問題ハ外交當局ノ處理スル處ニシテ自分トシテハ別ニ命令ナキ限り詳細ノ事情ハ關知セス只法院ハ支那人債權者ノ權利保護ノ見地ヨリ訴訟ノ提起アレハ被告ノ何人タルヲ問ハス一應之レヲ受理シ訴訟ノ進行ヲ計ル様善處シ居ル次第ニテコノ種取扱ハ南京鎮江等ニ於テ例へハ英米人ヲ被告トシテ民事訴訟ヲ審理シタル前例モ尠カラサルニ依リ右慣例ニ做(省略)ヒテ處理シ居ルニ過キス從テ本件被告日本人ニシテ右訴訟ニ應スルノ意思ヲ以テ辯論期日ニ出廷スレハ法院ハ之レカ審理ヲ進メントスルモノナリ(尤モ判決執行能否ヲ考慮スレハ無意味ナリヤモ知レリト附言セリ)ト答ヘタルニ依リ田中ハ更ニ條約取極或ハ責任當局間ノ商議了解等ニ依リ外國人ニ與ヘラレタル地位ノ保障ハ任意一方的ニ動カスヘカラサル點ヲ説示シ又勝手ナル取扱ニ依ル例外的前例アリトスルモ右ヲ以テ直チニ領事裁判權ヲ享有スル外國人ヲ支那法院ノ被告トシテ審理シテ可ナリトノ議論ノ根據トハナリ難シト説明シテ楊院長ノ注意ヲ喚起シタル處大体了解シタル模様見エタルヲ以テ田中ハ彼我ノ紛争ヲ避ケルタメ院長ノ取計ニテ本件訴訟ヲ取消ス様何等カノ方法ヲ講セラレ度シト申入レタル處楊

ハ法院ニ於テ已ニ事件ヲ受理シタル以上直チニ之レヲ取消
スコトハ法院ノ威信及院長ノ立場ヨリスルモ不可能ナルニ

付キ右ノ取計ハ致シ難キモ本件ハ被告ノ出頭ナキヲ理由ト

シテ開廷延期トシ其ノ儘ニ放任シテ今後再ヒ呼出狀送達其

他審理ノ進行ヲナササルコトニ取計フヘシ又今後コノ種日

本人ヲ被告トスル訴訟ノ提起アリタル場合ハ端的ニ受理セ

スト拒否スル譯ニ行カサルモ當事者ニ事理ヲ論シテ訴訟提

起ヲ差控ヘシムル様取計フコトニ致スヘシト答ヘタル趣ナ

リ當田中力楊院長ト會談前刑事裁判長許家栻及書記長朱廷

鑾ト會談シタル際ノ印象ニ依レハ彼等ハ條約滿期國タル日

本人ニ對シテハ支那ノ法權ヲ行使シテ差支ナシトノ見解ヲ

有シ又條約未滿期國タル英米其他ノ國人ニ對シテハ本年一

月一日ノ外交部長宣言ニ依リテ領事裁判權撤廢ノ第一步ニ

入レルモノナルモ取扱辦法ノ通令ナキタメ支那ノ法權行使

ヲ差控ヘ居ルモノニシテ今後機會アル毎ニ之レカ實行ヲ圖

ラントノ底意アルヤニ見受ケラレタル趣ナリ何等御参考迄

右報告ス

本信寫送付先 北平 南京 在支各總領事

当省高等法院で受理すべき旨照会について

雲南 発
本省 7月12日後着

第九號

當地特派員ヨリ本月五日附公文ヲ以テ今回外交部ノ命令ニ
基キ當省ニ於ケル支那人對外國人間ノ訴訟事件ハ本年八月
一日以後當省高等法院ニ於テ受理スヘキ旨照會越セリ
就テハ右ニ對スル當方ノ取扱方何分ノ儀御同訓相仰キ度シ
北平へ轉電セリ

華洋裁判取扱ニ關スル件

793 昭和5年7月(12)日 在雲南橋丸(大吉)事務代理より

幣原外務大臣宛(電報)

八月一日以降中國人と外國人間の訴訟事件は

帝大名譽教授河合鉢太郎ハ貴地糧米行源興煤礦公司總經理
王義之ニ對シ大正十二年十月中商埠地内東團山子所在ノ土
地ヲ抵當トシテ金貳萬円ヲ貸與セルカ王ハ今回事業失敗ノ
為他ノ債權者ヨリ差押ヲ受けタルニ因リ十日以内ニ抵當權
ニ関スル訴訟ヲ提出セサレハ本件債權無効トナルヘキ旨五
月二十六日附ニテ河合ニ申越セル趣ナリ右ハ甚タ不合理ト
解セラル處本人若クハ代理人近ク貴地ニ赴ク筈ナルモ不
取敢王ニ就キ事情御聽取ノ上差當リ何等力措置ヲ採り置ク
必要アラハ可然御取計置カレ度

調べ方訓令

本省 6月7日後6時発

第一五號

792 昭和5年6月7日 幣原外務大臣より
在吉林石射總領事宛(電報)
河合鉢太郎所有債權無効阻止のため債務者取

794 昭和5年7月16日 在局子街田中副領事より
幣原外務大臣宛
華洋訴訟取扱いの変更により東拓關係債權回
收困難につき対処方請訓

(7月31日接受)

機密第一七六號
昭和五年七月十六日

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

損失鮮カラサルモノ有之依テ卑見トシテハ今後訴訟以外債權回収ノ方途無キ限り東拓ヨリ直接法院ニ提訴シ領事官ハ表面之力審理判決及執行等一切干與セサル態度ヲ執ルカ又ハ從來縣公署ニ於ケル華洋訴訟取扱全様領事官ノ立會ヲ認メシメ審決ノ公正ヲ期スル等何等カノ方法ニ依リ便宜法院ノ審決ヲ認ムル外無シト思考セラル處支那側ニ於テ右様管轄變更ノ措置ニ出テタル場合當館トシテハ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ何分ノ義回訓相仰度此段申進ス

本信寫送付先
在支代理公使、間島、奉天總領事

795 昭和5年7月17日 壴原外務大臣より
在雲南橋丸事務代理宛（電報）

第三號

中國側照会については放置し日本人が中國人
を被告として訴える場合は默認方訓令

本省 7月17日後3時58分発

貴電第九号ニ関シ
支那側照會ニ對シテハ別ニ回答ヲ發セス其儘放置セラレ度

昭和5年7月17日後3時58分発

第三號

中國側照会については放置し日本人が中國人
を被告として訴える場合は默認方訓令

本省 7月17日後3時58分発

貴電第九号ニ関シ
支那側照會ニ對シテハ別ニ回答ヲ發セス其儘放置セラレ度

氏ノ権利保持方取計ハレ度ク尙前記貴信四、ニ御問合ノ證券記載年月日ハ左ノ通（原物ニ依リ寫ヲ作製スルコトハ極メテ困難ナレハ是非必要トアラバ重ネテ申越サレ度シ）
證券番號 立契年月日
一ノ一 民國五年七月十三日
一ノ二 同 七年四月二十二日
二 同 二年二月初四日
三 同 六年十月十九日
四（三ト一括ノ分）同 七年七月二十四日
六 同 七年七月二十四日
(別紙河合博士回答寫作製ノ上添附ノコト)

(別紙)

河合博士回答
記
一、借用證（第四號證）貳萬圓ノ借款ハ袁貴及王義之ヲシテ本件土地ヲ買收セシムル爲ナレトモ小生ハ當時袁貴及其ノ支配人タル王義之トハ交際モ淺ク其ノ人トナリ
モ明知セス從ツテ深ク信用シ得サレハ萬一東園山子ノ

尚我方實際上ノ取扱トシテハ事實上會審權ヲ要求セサル現狀ニ顧ミ帝國臣民力任意ニ支那人ヲ被告トシ支那新式裁判所ニ訴フル場合ハ強イテ之ヲ阻止セサルコト、爲シ居ルニ付右ニ御承知相成リ度シ
北平ヘ轉電セリ

796 昭和5年8月12日 壴原外務大臣より
在吉林石射總領事宛

亞一機密第九三號

河合鉢太郎所有債權の保持方につき回訓
在吉林總領事 石射 猪太郎殿
支那人王義之關係土地差押ニ關スル件
昭和五年七月二十四日附貴信機密公第五三六號ニ關シ河合鉢太郎博士ニ當省派出頭方求メタル處本人病氣ノ故ヲ以テ東京慈惠會醫科大學助教授醫學博士兒玉周一氏河合博士ノ代理トシテ來省別紙寫ノ通御問合ノ點ニ付回答アリタルニ付委曲右ニテ御了承ノ上此ノ上トモ前電ノ趣旨ニ依リ河合

コトヲ乞ヒ小生モ其ノ後王義之ト交際シ其ノ人格モ明確トナリタレハ本土地ノ商租契約ハ他日日本領事館ノ認證ヲ乞フ必要ヲ生スル迄之ヲ保留シ又第一號證ノ借款契約ハ王義之ニ於テ日本領事館ノ認證ヲ乞フモ異議ナク且小生ハ何時ニテモ認證ヲ得ルモノト考へ今日迄其ノ手續ヲ取ラサリシモノナリ

三、本件ノ土地ハ買收ヲ完了シタル後時機ヲ見テ相當ノ日本ノ資本家ト協議シ現在極メテ不完全ナル大砂灘ノ貯木場ヲ此地ニ移シ且河川港ヲ築キテ吉林上下ニ交通スル船舶ヲ繫留スルノ所トナシ之ニ聯絡シテ新市街ヲ作リ吉林舊市街ノ繁華ヲ此地ニ移スハ吉林發展上ノ策此ノ外ニアラサルヲ考ヘ種々計劃シ王義之ニモ此計劃ヲ告ケ土地ノ買收ニ盡力セシメタレハ王義之モ之ヲ諒シ熱中努力セシモノナレハ王義之モ此計劃實現ノ爲多大ノ利益ヲ享ケ得ルモノト信シ其ノ土地ノ名義ヲ他人ニ移スヲ好マス且之ヲ他人ニ移シテ日本人ニ商租セシコト明瞭トナレハ危險ハ自ラ王義之ノ身邊ニ及フ虞アルカ故ニ王義之ハ本件ノ土地ヲ他人名義ニ移スヲ欲セサリシナリ然ルニ小生ノ企圖ハ吉林ノ事情日支ノ外交關係等ニテ容易ニ實現ノ見込ナク其ノ土地ニ關シテハ別ニ何等ノ企圖モナク打過キタリシカ先年滿鐵ノ松岡副社長ト協議シ滿鐵ニ於テ他日ノ發展ノ爲免モ角モ此ノ土地ノ買收ヲ願ヒシ際滿鐵ニ於テハ其ノ土地ノ所有者ヲ滿鐵ノ指示スル支那人ノ名義ニ變更セサレハ買收スルコト能ハストノ事ニ付小生ハ王義之ト交渉シ東團山子ノ土地ハ到底近キ將來ニ於テ小生ノ企圖ヲ實現スル見込ナケレハ王義之ニ於テ之ヲ他ニ賣却シ貳萬圓ノ元利ヲ支拂ヒ吳ルレハ王義之ニ其ノ處理ヲ一任スルモ然ラサレハ小生ノ手ニ於テ知己ノ支那人ニ賣却シ其ノ元利ヲ得テ損ヲ招カサル道ヲ講スヘント申込み王義之ハ此意ヲ諒シテ第二號ノ書翰ヲ送リ來レリ勿論小生ニ於テ此土地ヲ滿鐵其ノ他ニ相當ニ賣却シ得ハ王義之ニハ相當ノ報酬ヲ與フヘク王義之モ多年ノ交際ニ於テ小生ヲ確信シ其ノ處置ヲ一任シタルモノナリ

四、第三號證四ノ土地地券ハ其ノ土地ノ未タ商租契約ヲ爲ササル爲之ヲ吉林朝鮮銀行支店ノ吉林從純氏ニ預ケ置キシカ其ノ後林氏内地ニ歸任シタル爲鮮銀長春支店ノ松本市之助ニ保管ヲ乞ヒ置ケリ其ノ他ノ地券モ朝鮮

銀行或ハ郵便局ニ預ケ置ク皆ナリシモ滿鐵ト交渉上ノ必要モアリ之ヲ一時小生ノ手ニ於テ預リ置キシモノナリ五、第一號證ハ王義之ヨリ今回突發ノ事件ニ關シ斯ノ如ク吉林法院ニ説明スルト云フ其ノ事ヲ小生ニ來示シタルモノニシテ今回新ニ特ニ事實ヲ小生ニ説明セシニアラス是レ王義之ニハ小生ノ他日吉林法院ニ出テ説明ノ必要アル場合ノ注意迄ニ小生ニ申越セシニ過キス

以上

河合鈎太郎

以上

昭和五年八月八日

797
昭和5年8月16日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

交渉員制度の撤廃および外交部駐哈吉林特派

員の設置に対する所見申進

(8月27日接受)

機密公第五八五號

昭和五年八月十六日

在吉林

總領事 石射 猪太郎 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

リタル事由モ實際上領事ノ對地方官交渉權ヲ害セラル
ヽコトナカリシニ因ルモノニシテ從來當館ニ於テモ大
多數ノ交渉案件ハ交渉員ニ持込ミツヽアリタルモ特ニ
急速ヲ要シ又ハ交渉員ヲ經由セサル方解決上便宜ナリ
ト思考セル事件ニ付テハ直チニ關係官憲ニ對シ交渉セ
ル事例少ナカラス其場合交渉員ハ多少不愉快ナル顔ヲ
ナセルモ關係官憲ニ於テ其交渉ヲ拒否シタルコトナシ
三、然ルニ今般交渉員廃止セラレ特派員ノ設置アリタリト
ハ云ヘ其權限、對中央及ヒ對地方官憲關係ノ實質ニ於
テハ兩者格別ノ差異ナク要スルニ新制ハ單ニ其名稱ヲ
変更シテ旧制ヲ繼續シタルモノニ過キス只新旧両制カ
當館トノ關係ニ於テ異ナレルハ特派員カ吉林特派員ナ
ル名稱ヲ有スルニ拘ラス實際上哈爾賓ニ駐在スルコト
ヽナリ距離遠隔セル点及ヒ吉林省城ニ別ニ特派員ノ任
命シタル主任一名ヲ置キタル矣ナリ

四、然シ乍ラ當館ニ於テ旧交渉員ヲ認メテ之ト交渉シ来リ
タル以上其ノ同質ノ後身タルニ過キサル特派員ノ駐在
地ノ如何ヲ問題トシ之トノ交渉ヲ回避スルカ如キコト
ハ大局ヨリ見テ好マシカラサルノミナラス吉林全省ノ

有スル施履本ノ如キ人物ヲ幾分ニテモ働キ得ル地位ニ
引キ上ケ置クコトハ結局我方ノ利益ナリト思考シタル
ニモ因ル、

六、幸ニシテ最近ニ至リ吉林辨事處ハ吉林分處ト改稱セラ
レ施主任ノ署々独立ノ機能ヲ有スルコトヽナリタル次
第ハ既報ノ通リナルカ此上共ニ同主任ノ地位改善ノ望
ナキアラサルヤニ思考ス蓋シ外交部駐哈特派員辨事處
簡章第四條ニ「吉林省城外交事項由特派員派主任一員
駐辦」（七月二十六日付機密公第五四二号參照）ト規定
シアルヲ支那側ニテハ「省城ニ於テ發生シタル外國
人關係事件」ト解釋シ主任ノ權限ヲ極メテ狹キ範圍ニ
止メ來リタル處（四月二十七日付機密公第二八六号參
照）最近ニテハ事實上主任ノ權限ハ大分擴張セラレ省
城外ノ外國人關係ニ付テモ特派員ヲ經由スルコトナク
直接省政府ヨリ處理ヲ命セラルヽコトアリ當館申入レ

ヲモ直チニ張作相主席ニ持込ミ指圖ヲ仰クコトアル實
情ニテ行々ハ特派員ニ署近キ實權ヲ得ヘキカト觀測セ
ラレ現ニ同主任ハ一両日前長岡副領事ニ對シ其可能性
アル旨内話セル趣ナリ

リタル事由モ實際上領事ノ對地方官交渉權ヲ害セラル
ヽコトナカリシニ因ルモノニシテ從來當館ニ於テモ大
多數ノ交渉案件ハ交渉員ニ持込ミツヽアリタルモ特ニ
急速ヲ要シ又ハ交渉員ヲ經由セサル方解決上便宜ナリ
ト思考セル事件ニ付テハ直チニ關係官憲ニ對シ交渉セ
ル事例少ナカラス其場合交渉員ハ多少不愉快ナル顔ヲ
ナセルモ關係官憲ニ於テ其交渉ヲ拒否シタルコトナシ
三、然ルニ今般交渉員廃止セラレ特派員ノ設置アリタリト
ハ云ヘ其權限、對中央及ヒ對地方官憲關係ノ實質ニ於
テハ兩者格別ノ差異ナク要スルニ新制ハ單ニ其名稱ヲ
変更シテ旧制ヲ繼續シタルモノニ過キス只新旧両制カ
當館トノ關係ニ於テ異ナレルハ特派員カ吉林特派員ナ
ル名稱ヲ有スルニ拘ラス實際上哈爾賓ニ駐在スルコト
ヽナリ距離遠隔セル点及ヒ吉林省城ニ別ニ特派員ノ任
命シタル主任一名ヲ置キタル矣ナリ

四、然シ乍ラ當館ニ於テ旧交渉員ヲ認メテ之ト交渉シ来リ
タル以上其ノ同質ノ後身タルニ過キサル特派員ノ駐在
地ノ如何ヲ問題トシ之トノ交渉ヲ回避スルカ如キコト
ハ大局ヨリ見テ好マシカラサルノミナラス吉林全省ノ

外交事項ニ付統轄的權限ヲ有スルコトヽナリタル特派
員ヲ交渉相手トシテツカマエ置クコトハ省城ニ所在ス
ル當館ノ地位上有利ナリト思考シ又實際上ヨリ云フモ
新特派員力從來ノ交渉懸案ニ関スル書類全部ヲ其假哈
爾賓ニ持チ去リタル關係アリテ當面ノ必要上已ムヲ得
サリシ事情モアリ旁々之トノ折衝ヲ繼續セル次第ナル
カ其後特殊案件ニ付省政府ニ直接持込タル場合未タ交
渉ヲ拒絕セラレタルコトナキハ從前ノ通りナリ

五、一方當館ニ於テハ鐘特派員就任ト同時ニ設置セラレタ
ル同特派員辦事處主任施履本ノ「オークワード」ナル
立場ヲ改善シテ日常事務處理ノ便益ヲ収ム様仕向ケ
タルカ右ハ同主任ト鐘特派員トノ機微ナル公私關係ヲ
顧慮スル必要アリ（施ハ北京ニ於テ落魄中今回鐘ノ斡
旋ニテ拾ヒ上ケラレタルモノヽ如シ）ト認メタルヲ以
テ特ニ露骨ニ亘ルヲ避ケタリト虽モ當館ノ講シタル施
主任護リ立テノ措置ニ付テハ屢次ノ報告ニ依リ或ハ御
想察ニ難カラサリシヤト存ス

此等ノ措置ハ上述ノ如ク當面ノ事務處理ノ便益ヲ希求
シタルニ基クモ他方日本語ニ精通シ且ツ日本ニ理解ヲ
テニ付テモ折衝應對スル方針ナリ

七、當館ノ立場及ヒ實際ノ必要ハ前述ノ如クナルノミナラ
ス領事對地方官憲交渉權ノ行使ヲ拒否セラレサル限り
從來ノ事態ノ延長ヲ承認スルハ差支ナキ次第ト信スル
ヲ以テ本官トシテハ今後ニ於テモ必要ト思惟スル所ニ
從ヒ鐘特派員ニ對シテ掛合フト同時ニ先方ヨリノ申出
テニ付テモ折衝應對スル方針ナリ

以上

798
昭和5年9月5日 在ハルビン八木總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

東拓の登記済不動産抵当権抹消訴訟を中國法 院受理について

付記 一 作成年月日不明

条約局「不動産登記ニ関スル訴訟ノ管轄ニ
權トノ關係」

三 九月四日付在ハルビン八木總領事より外交
部駐哈吉林特派員鐘毓宛中第六九号（公信）

裁判管轄に対する抗議について

ハルビン 9月5日後発

本省 9月5日後着

ムル方針ト推察スル旨語レル趣ナリ

詳細郵報

第二二七號

(付記一)

不動産ニ關スル登記ト領事裁判権トノ關係

當地東拓ニ於テ完全ニ支那裁判所ニ抵當權ノ設定登記ヲ了セル不動產アリ其ノ取引内容頗ル複雜シ居ルカ先般該不動產ノ前々所有者タル露國人ヨリ東拓ヲ被告トシ登記抹消ノ訴訟ヲ提起シタルニ地方法院ハ管轄權ナシトテ却下シタリ

然ルニ原告ハ高等法院ニ上訴シ同院ヨリハ南京政府ニ伺出タル結果南京ヨリ不動產登記ニ關スル訴訟ハ登記人力支那法院ノ管轄ニ屬スルト否トヲ問ハス之ヲ受理スヘキモノナリトノ指令アリ之ニ基キ高等法院ハ原告ノ主張ヲ認ムル判決ヲ下シ訴訟ヲ受理スヘキモノトシテ地方法院ニ差戻シタリ本官ハ不敢外交部特派員ニ對シ詳細理由ヲ述ヘ抗議ヲ提出スルト共ニ東拓ノ權利擁護ニ付善後策考究中ナリ

尙本件ニ關シ地方法院長ハ中川領事ニ對シ自分ハ南京ノ指令ヲ無理ト思考スルモ上級審ノ判決ニ依リ之ヲ受理スル外ナク被告ニ於テ應訴セサレハ原告ノ勝訴トナルヘク結局南京政府ハ斯ノ如キ手段ニ依リ漸次治外法權撤廢ニ一步ヲ進

元來邦人ハ商埠地ニ於テ不動產ヲ所有スル能ハサルヲ以テ商埠地ニ於ケル領事裁判所ハ不動產ニ關スル登記ヲ受理スル能ハス從ツテ邦人ニシテ不動產ニ對シ抵當權等ヲ設定セムト欲セハ右不動產ノ登記セラレアル支那裁判所ニ之ヲ登記スルヨリ外途無シ而シテ東拓力支那裁判所ニ不動產ニ關スル抵當權ヲ登記セルコトニ依リ該權利ヲ取得スル爲自發的ニ支那ノ法權ニ服シタルモノナリト云ハサルヘカラス、故ニ右ニ關シ支那裁判所ニ訴訟提起セラレタルトキハ右ガ登記無効ノ訴タルト登記抹消ノ訴タルトヲ問ハズ東拓力被告タル

(付記二)

不動產登記ニ關スル訴訟ノ管轄ニ關スル件

ニテ該訴訟ヲ受理シ判決ヲ下シタリトスルモ其ノ結果支那裁判所ニ登記セル權利ヲ何等變更、廢棄又ハ確認シ得ヘキモノニ非サルコト明ナリ故ニ東拓ニテ該權利ヲ擁護セムト欲セハ支那裁判所ノ管轄ニ服スルヨリ外途無ク若シ服スルヲ欲セサルニ於テハ其ノ權利ヲ喪失セサルヘカラス、右ハ國際法上一國ノ君主又ハ大公使カ外國ニ在リテハ治外法權ヲ有スルモ私人ノ資格ニテ有スル外國ノ不動產ニ關スル訴訟ニ付キテハ所在地國ノ裁判管轄ニ服セサルヘカラスト同様ナリ

然ラハ茲ニ我方トシテ東拓等カ自發的ニ支那ノ法權ニ服スルヲ默認スヘキヤ否ヤノ問題ヲ生スルトコロ右ニ付キテハ假ニ邦人力債務者タル場合等ニ任意ニ支那ノ裁判所ニ出廷スルハ明ニ權利ノ放棄ナルヲ以テ之ヲ阻止スヘキモノナルモ本件ノ如キ權利ヲ獲得スル爲ニ任意ニ支那ノ法權ニ服セル場合ハ之ヲ默認スヘキモノナリト思考ス

ヲ有セザルカ故ニ外國人ニシテ不動產ニ對シ抵當權等

ザルナリ

ヨ設定スル場合右抵當權ヲ第三者ニ對シ主張シ得ルモノタラシメノカ爲ニハ權利取得者ヨリ自發的ニ該不動產ノ登記セラレアル中國裁判所ニ之力登記ヲ爲サザルヲ得ザル狀態ニ在リ蓋シ右抵當權ヲ外國側ノ官廳ニ登記セシメントスルモ登記義務者及登記ノ目的物ハ全然外國裁判所ノ管轄外ニ在リテ之ニ對シ登記ヲ強制スルノ余地ナケレバナリ

ハ登記ナル行政作用（登記ハ非訟事件ニシテ本質的ニ
ハ行政權ノ作用タリ）ノミニ關スルモノニシテ抵當權
設定ナル實体法上ノ法律關係ニ對スル裁判管轄權ハ之
ニ依リ中國裁判所ノ管轄ニ歸スルコトナク依然トシテ
條約ノ規定ニ依リ其ノ所屬國裁判所ノ管轄ニ留保セラ

ルモノト解釋セザルベカラズ此ノ場合實体法上ノ行爲
ハ不動產所在地法タル中國ノ法令ニ準據シテ爲サルル
コトアルヘキモ右ハ本邦法例ノ當然豫見スル所ニシテ
行爲ノ準據法カ中國法令ナルカ故ニ本邦領事裁判所ハ
之ニ對シ裁判管轄權ヲ失フモノナリトノ議論ハ成立セ

リ
權トハ全然其ノ性質ヲ異ニス即チ前者ハ國際法上ノ制度ニシテ後者ハ條約上ノ制度ナリ而テ領事裁判ナルモノハ外國ニ於ケル私權ノ裁判ニ關スル特權ナルガ故ニ一國ノ君主ガ私人トシテ領事裁判權ノ行ハルル國例ヘバ中國ニ於テ不動產ヲ所有シタリト假定センカ此ノ場合ニハ右君主ト雖モ領事裁判權ナル特權ニ依リ右不動產ニ付所在國裁判所ノ裁判管轄權ニ服スルコトナキナ

(註) 上述ノ解釋ニ依レバ中國ノ登記簿面ノ記載事項ノ保存又ハ抹消ハ或場合外國裁判所ノ判決ニ懸ルコトトナリ一見不都合ナルガ如キモ右ハ領事裁判制度ニ必然伴フ缺陷ニシテ此ノ缺陷ヲ理由トシテ領事裁判ノ根本原則ヲ否認スベカラズ

件中第六九號

昭和五年九月四日

在哈爾賓

日本帝國總領事 八木 元八

第一、今假リニ右指令ニシテ正當ナルモノトスルモ日支通商航海條約ハ國家ト國家トノ間ニ締結セラレタル條約ナレハ國內法乃至指令ニ據リテ^(マ)權ニ之力改廢變更ヲ爲シ得ヘカラサルヤ勿論ニシテ條約ハ司法院指令ニ對シ當然優先的適用ヲ受クヘキモノナリ右條約第二十條ニハ清國ニ在ル日本

外交部駐哈吉林特派員 鐘毓殿

四、抑々登記抹消ノ訴トハ實体法上ノ無權利ヲ理由トシテ
登記簿面ヨリ或登記ヲ抹消スベシトノ判決ヲ請求スル
モノナリ即チ名ハ登記上ノ訴ト云フモ其ノ實裁判所ハ
此ノ訴ニ依リ實體法上ノ法律關係ヲ審理シ權利ノ有無
ヲ判斷シ之ニ從ヒ登記ノ抹消ヲ命シ又ハ抹消ノ請求ヲ
却下スルモノトス而テ右實体法上ノ裁判ハ飽ク迄條約
ノ規定ニ基キ被告所屬國ノ裁判所ノ管轄ニ屬セザルベ
カラザルコト前述ノ如シ登記ガ自國裁判所ノ管轄ニ屬
スルヲ理由トシテ登記原因タル實体法上ノ法律關係ノ
裁判ヲモ其ノ管轄ニ屬スベキコトヲ主張スルハ非訟事
件ト裁判事件トヲ混同スルモノニシテ登記抹消ノ訴ト
雖モ其ノ實質ハ實体法上ノ法律關係ノ裁判タルヲ無視
セルモノナリ

於テハ登記人力中國法院ノ管轄ニ屬スルト否トヲ問ハス所
管法院ハ之ヲ受理スヘキモノナル故ヲ以テ原判決ヲ廢棄シ
本案ハ東省特別區地方法院ニ受理スヘキモノトスル旨判決
セラレ右判決理由ノ根據トシテ國民政府司法院指令本年指
示第二九八號ヲ參照セラレタリ查スルニ右高等法院判決ハ
明カニ不當ニシテ且違法ナリト信ス左ニ其理由ヲ説明スヘ
シ
第一、今假リニ右指令ニシテ正當ナルモノトスルモノ日支通
商航海條約ハ國家ト國家トノ間ニ締結セラレタル條約ナレ
ハ國內法乃至指令ニ據リテ^(マニ)之カ改廢變更ヲ爲ン得ヘカ
ラサルヤ勿論ニシテ條約ハ司法院指令ニ對シ當然優先的適
用ヲ受クヘキモノナリ右條約第二十條ニハ清國ニ在ル日本

國民ハ身體財産ニ關スル裁判管轄權ハ當該國管理ニ專屬シ
清國官吏ノ干涉ヲ受クルコトナキ旨第二十一條ニハ日本國
民ニ對シ又ハ其財產ニ關シ民事訴訟ヲ提起スルトキハ日本
國官吏之ヲ審理判決スヘキ旨各規定シ所謂領事裁判力被告
主義ヲ一貫シ之ニ對シ何等例外ヲ認メス從テ中國法律ニ根
據スル不動產登記ニ關スル訴訟事件ハ日本領事裁判ヲ受クヘキモ
本國民ヲ被告トスル訴訟事件ハ日本領事裁判ヲ受クヘキモ
ノトシタリ是右條約趣旨解釋上一點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナ
シ

第二、次ニ貴高等法院力其判決理由ノ根據トセラレタル右
司法院指令ハ適用シ得ヘカラサルモノナリ即右指令ハ司法
公報第八十二號ヲ見ルモ司法院カ民事訴訟法ノ管轄ニ關ス
ル解釋ヲ何等法律ニ準據スルトコロナク□然下シタルノミ
中華民國ハ法治國ナルコトヲ明カニスル爲メ其根本法タル
臨時約法第四十九條竝ニ國民政府修正司法院組織法第五條
ニ法院^(マニ)ハ單ニ法律ニ據リテノミ裁判シ得ル旨ヲ定メラレタ
リ然ルニ何ソヤ貴高等法院ハ法律ニ非ラサル前記ノ如キ上
級官廳ノ指令ニ基キ裁判セラレタリ從テ右判決ハ右臨時約
法又ハ組織法ニ違反スル失當ナル判決ナリト思料セラル更

ニ進シテ右指令其モノノ性質ヲ推察スルニ一旦治外法權享
有國民ニ於テ貴國法院所管ノ登記所ニ不動產ニ關スル登記
ヲ爲スニ當リ不動產登記ニ關シテハ將來貴國法令ヲ遵守ス
ヘキ旨ヲ契約シタレハトテ右契約ハ條約ニ抵觸セサル限度
ニ於テノミ有效ナリト解セラルヘキモノニシテ個人ハ國家
間ニ締結セラレタル條約ヲ其自由意思ニ依リ其適用ヲ受ケ
サル旨ノ意思表示ヲ爲スモ無效ナリ之レ條約カ公法的性質
ヲ帶フル當然ノ歸結ナリトス果シテ然ラハ右指令ハ不動產
登記ニ關シ既ニ無效ナル意思表示ヲ有效ナルモノト誤認シ
之ヲ前提トシテ貴國法院カ治外法權享有國人ヲ被告トスル
訴訟ヲ受理シ之ニ對シ裁判權ヲ行使シ得ルモノトシタルハ
明カニ該指令ソレ自体失當ノモノナリト信ス本件訴訟事件
ニ付キ之ヲ見ルニ被告タル日本國商人ハ其所有不動產ニ付
キ貴國法院所管ノ登記所ニ登記ヲ爲シタリ然レトモ右登記
ヲ爲スニ當リ不動產登記ニ關スル貴國法令全部遵守スヘキ
旨ノ契約ハ之ヲ爲シ居ラサルモノニシテ斯ル日本國商人ヲ
被告トスル訴訟事件ヲ貴國法院ニ於テ之ヲ受理セラレ之ニ
對シ審判セラルルハ何レノ點ヨリ見ルモ失當ナリト思料セ
ラル

以上ノ次第ナルヲ以テ貴官ヨリ法院當該官ニ對シ右本官ノ
意見ヲ篤ト御說示相成假リニモ條約違反トナルヘキ處置ヲ
執ラレサル様特別ノ御配慮相煩シ度此段得貴意候 敬具

799 昭和5年9月12日 在吉林石射總領事より

幣原外務大臣宛

機密公第六七九號 昭和五年九月十二日
(9月29日接受)
河合鉢太郎所有債權保持取計い方について再
考究の必要ありとの意見具申

ト答覆アリタル旨回答越シタリ

然ルニ普通ニ之ヲ云ヘハ裁判所ノ爲シタル差押ノ解除ハ異
議申立ノ手續ニ依ルヘキコト當然ナルモ當國ニ行ハルル領
事裁判權ノ關係上支那裁判所ヲ認メサル我方從來ノ建前モ
アリ當館ニ於テハ從來支那裁判所ノ差押ニ依リ本邦人ノ權
利利益ノ侵害セラレタル場合ニハ裁判所ニ異議ノ訴ヲ提起
スルコトヲ避ケンメ置キ單純ナル他ノ交渉事件ト同様交渉
員(現在ニ於テハ施駐哈特派員吉林分處主任)ニ對シ其不
當ヲ鳴ラシテ解除方ノ要求ヲ爲スヲ例トシ來リ而カモ今日
迄ノ同種事件ノ多クハ木材ノ如キ動產ニ關スルモノナリシ
質ヲ握リタル後異議ノ訴ヲ提起セシメ一旦勝訴ノ判決アル

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
支那人王義之關係土地差押ニ關スル件

本件ニ關シ七月二十五日付機密公第五三六號往信ヲ以テ申

進メタルニ對シ八月十二日付亞一機密第九三號貴信ヲ以テ
河合氏ノ權利保持方取計フヘキ旨御來訓ノ次第アリ依テ當
時當館事務代行中ナリシ長岡副領事ヨリ別紙寫甲號ノ通り
當地施外交部特派員分處主任ニ對シ申入レ置キタル處同主

ヤ直チニ差押物件ヲ引取り處分シテ繫争ヲ自然消滅ニ歸セシメ事件解決トナリタル事例モアル次第ナルカ河合氏ニテ異議ノ訴提起ニ意アルヘキヤ否ヤハ知ルヲ得サルモ假令其意アリタルモ本件差押物件カ土地タル關係上木材ノ如ク爾カク簡単ニハ行カサルコト申ス迄モナクサリトテ專ラ交渉事件トシテ交渉ヲ試ムルトスルモ早急ノ解決ハ望ミ難ク萬一永吉地方法院ニ於テ强行ノ意思ヲ堅ムルカ如キコトアランニハ當方交渉懸案中ナル行掛リヲ無視シテ成規ノ手續ヲ推シ進メ競賣ヲ實行シテ事件ヲ愈々河合氏ニ不利ナラシムルニ至ルヤモ計ラレサルカスクノ如キ事態ノ招來ヲ防キ且其間何等解決ノ方法ヲ發見ゼンカ爲メニハ當館ニ於テ相當強硬ナル態度ヲ持シ或ハ多少トモ威嚇的ナル口吻ヲ弄スル程度ノ交渉振ヲ示シテ施主任及ヒ法院側ヲ牽制スルノ方策ニ出ツル必要豫見セラルル次第ナル處コレニハ

一、本件債權者側ニ於テ日本人ノ土地權入手ニ對シ極度ニ神經ヲ尖ラン居レリト認メラル現下ノ支那官民ヲ動カシ王義之ヲ目シテ日本人ニ土地ヲ盜賣シタルモノトシ（河合氏ノ本件土地問題ノ實情ナリトテ申述ヘ居ル所ハ事實斯クノ如シ）攻撃ノ火ノ手ヲ揚ケ牽イテハ珍

ラシカラヌコト乍ラ本件ヲ發端トシテ又復日本ノ對滿蒙侵略呼號ナトノ氣勢ヲ煽ラルコトトモナラハ小ニシテハ從來當地ニ於ケル一親日的事業家トシテ一般在留邦人ノ評判モ相當ヨキ模様ナル王義之ニ所謂賣國奴ノ汚名ヲ被ラシムルノミナラス大局上ヨリ言フモ細故ニ因リテ事ヲ滋ケカラシムル次第ニテ甚タ面白カラスト思考セラルル一方

二、當方ノ疑問ト爲シタル諸點ニ就テハ前顯貴信御添付ノ河合氏答申ノ次第ハアリタルモ仍未釋然タラサルモノアリ（例へハ右答申第二項中關姓投獄ノ事實ヲ記載シアル處其字句明瞭ヲ缺キ而カモ極メテ效果的ナル記述トナリ居ルモ當地ニ於テ取調ヘタル所ニ依レハ關姓ハ王義之ニ其所有土地ヲ賣渡シタル事實ハアルモ河合氏關係土地賣買事件ニ關聯シタル投獄ニハ非ラサリシ由ナルカ如キ、又同答申第三項末段ノ經緯ヲ以テ王ヨリ河合氏ニ送リタルモノトシテハ證第二號ノ書翰ハ甚シク辻棲ノ合ハヌモノナルコト及ヒ同答申第四項長春鮮銀杉本氏保管ノ土地證券ニ關スル說明ハ權威ノ點ニ於テ勿論比較シ得ヘキ筋合ニハ非ラサルモ王義之ノ右ニ

關スル陳述ト異リ居リ、更ニ同答申第五項ノ王義之ノ書面ニ關スル説明ハ其書面以前本件ニ關シ王ヨリ河合氏宛通信アリシト推セラル節モアリテ必シシモ方便ニ出テタルモノニ非ラストモ斷シ難シ）殊ニ同答申第一項ニ於テ「二万圓ノ借款ハ袁貴及ヒ王義之ヲシテ本件土地ヲ買收セシムル爲（中畧）貸與シタリ」ト明記シリ且當初河合氏ヨリ提出アリタル願書附屬ノ「本件事情」中ニモ「金二万圓ヲ袁貴ニ渡シ王義之ト共ニ土地ヲ買收セシメタリ第三號證ノ示スカ如ク第一第二ヲ袁貴即チ袁榮軒ノ名ニテ買收シ第三ヲ王義之ノ名ニテ買收セリ更ニ第四ノ土地ヲ王知方即チ王義之ノ名ニテ買收ス」トアルヲ以テ右二万圓ヲ貸與ノ形式ニテ交付シタル後土地ヲ買收シ之ヲ王及ヒ袁ノ名義ニ書キ換ヘタルヘキ筈ナルニ拘ラス貴信御記載ニ依レハ立契年月日ハ何レモ民國七年七月二十四日以前ニシテ右二万圓ノ借用證書ノ日付タル民國八年十一月十一日（當日當館ニ於テ認證ヲ經タリ）以前ナルコトハ如何トモ解シ難キ所ニシテ此等各種ノ疑點ニ付満足ナル説明ヲ河合氏ヨリ與ヘラレ充分本件ノ性質ニ關シ確信ヲ有スル

ニ至ラサル限り當館トシテハ前述ノ通り施主任並ニ法院側ヲ牽制シ何トカ解決ノ途ヲ求ムル爲メ必要ト思考セラルルカ如キ強硬ナル態度ニ出テシコトハ到底不可能ナル次第ナリ

本件實情上述ノ通リニシテ固々當館トシテハ確信ヲ有セス且利害得失ニ就テハ相當顧慮シツツモ万一手遲レトナリテ悔ヲ後日ニ貽スコトナキ様不取敢施主任ヘ申入レタルニ對シ前記ノ如ク法院ヘ異議ノ訴提起方回答越シタル次第ニテ一先ツ交渉事件トシテペンデンジングノ形トナリタリトモ稱シ得ヘキヲ以テ此機會ニ於テ各種疑點並ニ利害得失ニ付充分考究ヲ遂ケタル上今後善處ノ方策ヲ決定致シ度ク要スルニ當館ニ於テハ河合氏ハ王ヨリ哀訴セラレ從來ノ懇誼モタシ難ク其窮狀救出ニ乘リ出シタルモノニ非ラスヤト疑ヒ居ル次第ニテ念ニハ念ヲ入ルル爲メ再々照會ニ及フモノナルニ付本省ニ於テモ河合氏及ヒ關係書類特ニ土地證券等ニ就キ御研究相成其結果ナルヘク早目ニ御回示ヲ煩ハシ度ク當方所見報告旁々別紙甲乙兩號相添此段申進ス

追テ河合氏ハ少ク共一回當地ニ來遊シ相當期間滯在シタルコトアルモ現在ノ在留邦人中ニハ個人的ニ同氏ヲ知ル

者ナシ又同氏力曾テ本件土地ノ満鐵ヘ賣込方交渉シタル事實アルコトハ當方ニ於テモ承知シ居リ尙前記河合氏答申第五項ニ第一號證云々トアルモ右ハ當方提出ノ書類ニハ番號ヲ付シアラサルモノニ付此等ノ點御含ミ迄申添フ

(別紙)

甲號

外字第十四號

昭和五年八月十九日

長岡總領事代理 發

施主任宛

河合鉢太郎對王義之土地關係債權ノ件

拜啓 陳者東京在住本邦人河合鉢太郎（林學博士）ノ稟稱

ニ據レハ同人ハ民國十二年十月初一日付別紙第一號寫ノ通

リノ證書ヲ以テ吉林省城吉林源興煤礦公司總經理貴國人王義之ニ對シ王所管ノ東團山子所在土地ヲ抵當トシテ金貳万圓ヲ貸與シタル處其後王ハ昭和二年（民國十六年）中利息金三千圓ヲ支拂タルノミニテ嚴重督促シタルニ拘ラス元本ノ返還ヲ爲サリシカ今回王義之力株主ノ一人タル長盛東

権利者依法得提起異議之訴現該日人河合鉢太郎既對查封債務人王義之之土地主張抵押權儘可提起異議之訴以資解決相應函請貴處查照轉行知照等因准此相應照會
貴總領事查照轉行飭知該日人河合鉢太郎知照為荷
此照會

大日本駐吉總領事石射猪太郎

外交部駐哈特派員吉林分處主任施履本〔印〕

中華民國十九年九月九日

800 昭和5年10月1日 在局子街田中副領事より
幣原外務大臣宛外交部命令により華洋訴訟は地方法院で受理
の旨延吉県長より回答について機密第二六二號
昭和五年十月一日

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

昭和五年十月九日

801 昭和5年10月9日 在吉林石射總領事宛
幣原外務大臣より河合鉢太郎所有債權問題に關して當面成行き
をまつとの回訓

亞一機密第一二〇號

昭和五年十月九日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

華洋裁判取扱變更ニ關スル件

菸廠店倒産ニ累セラレ右河合ノ抵當トシテ受ケ入レ居リタル東團山子所在王所管土地モ長盛東ノ債權者益民儲蓄會ノ申請ニ依リ吉林地方法院ノ爲メ差押ヘラルニ至リタル趣ニテ右金貳万圓ノ抵當權利確保方ニ關シ當館ヨリ適當措置ヲ講シラレ度旨願出有之候然ル處河合ニ於テハ前記貸與證書ノ外別紙第一號寫ノ通リノ民國十八年十月一日付ヲ以テ王義之ヨリ送付シタル書面ヲモ所持シ居リ右債權債務ノ存在ハ確實ナリト認メラレ候ニ付テハ貴主任ニ於テ吉林地方法院側トモ御接洽相成本件河合ノ債權確保方可然御取計ヲ得度別紙第一第二兩號寫相添此段照會得貴意候 敬具

乙號

照會第八號

為照復事案准第十四號

貴照會以東京日人河合鉢太郎（林學博士）貸與吉林源興煤礦公司總經理王義之日金二萬元以王之所有坐落東團山子之地土為抵押現被長盛東之債權者益民儲蓄會申請地方法院為之差押請予確保河合之債權一案茲經函准吉林永吉地方法院函覆內稱查第三人對於強制執行之標的物因有所有權或其他

本件ニ關シ曩ニ本年七月十六日附機密第一七六號拙信ヲ以テ及請訓置キタル處客月中旬延吉縣長ヨリ今般國民政府外交部ノ命令ニ依リ今後提起セラルル華洋訴訟ハ一律ニ地方法院ニ於テ受理スルコトトナリタル旨口頭ヲ以テ通告アリタルヲ以テ其後公文ニテ照會致シタルトコロ今般別紙寫ノ通回答越ノ次第有之就テハ前信御參照ノ上本件ニ對スル處置振ニ付本官心得迄ニ何分ノ義折返シ御回訓相仰度シ
本信寫送付先

間島、奉天、吉林各總領事

在支代理公使

昭和5年10月9日 在吉林石射總領事宛

河合鉢太郎所有債權問題に關して當面成行き
をまつとの回訓

亞一機密第一二〇號

昭和五年十月九日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在吉林

總領事 石射 猪太郎殿

支那人王義之關係土地差押ニ關スル件

昭和五年九月十二日附貴信機密公第六七九號ニ關シ當方ニ於テハ河合鉢太郎氏ヨリ貴館宛送付セル願書並ニ書類寫ナキ爲事情詳細ニ判明セサル處アリタルヲ以テ河合鉢太郎博士ニ右書類ノ寫ヲ請求シタル處同博士十月六日及七日來省シタルカ其ノ意図ハ東團山子ノ土地ヲ入手ノ上ハ更ニ其ノ内部ニ向ヒ土地ヲ買收スルコトハ容易ニシテ將來其ノ土地ヲ貯水池ト爲シ或ハ満鐵ニ右權利ヲ讓渡シ度ク右計劃實現ノ上ハ其ノ事業ノ利益ハ相當多額ニ達スヘク何レニスルモ東團山子ノ土地ニ對シ權利ヲ有シ居ルコトハ極メテ必要ニシテ若シ本件土地ヲ競賣ニ付シ貳萬圓ノ元利ヲ得ルコトアルモ東團山子ノ土地ヲ失フコトハ上述ノ希望ヲ斷念スル結果トナルコトナレハ假令今回ノ王義之ノ益民儲蓄會ニ對スル債務約六千元（河合博士ノ王義之ヨリ聞及ヒタル所）ヲ河合博士ニ於テ支拂フコトトナルモ東團山子ノ土地ヲ手離スコトハ斷シテ好マシカラスト謂フニ在リ旁同博士ハ目下ノ處斯クマテ金錢上ノ負擔ヲ爲サストモ何トカ本件ヲ解決シ能ハスヤトノ質問ナリシヲ以テ（尤右博士ノ底意及東團

日）第四ノ土地ニシテ立契ハ民國九年ナレハ右爲念

802 昭和5年10月27日 币原外務大臣より
在局子街田中副領事宛
華洋裁判取扱変更に關し中國側來翰は放置し
條二機密第三五號
昭和五年十月二十七日

803 昭和5年11月4日 币原外務大臣宛
在濟南西田總領事より
東拓對濟南電話公司訴訟事件第一審後の狀況報告
機密第五〇六號
昭和五年十一月四日
（11月13日接受）

在局子街
副領事 田中 作殿
華洋訴訟取扱ニ關スル件
本年七月十六日附貴信機密第一七六號並十月一日附機密第
二六〇號ヲ以テ御請訓ノ趣了承我方ニ於テハ支那法院ニ於
テ華洋訴訟事件ヲ管轄スルコトニ付正式ノ承認ヲ与ヘタル
次第ニ非サルニ付其ノ管轄変更ニ關スル支那側來翰ニ對シ
テハ何等回答ヲ發セス其儘放置セラレ度又實際上ノ取扱ト

山子ニ對スル同博士ノ眞意ハ王義之ニ判明セサル様致度ク

右王義之ニ判明セハ王義之ニ更ニ金錢ヲ強請セラルノ虞ヲ生スルニ至ルヘシト）當方係官意見トシテ博士ノ眞意以上ノ如シトセハ法院へ異議ノ訴ヲ提起スルコトハ土地ノ競賣ヲ招來スヘク若シ斯ノ如キ結果トモナラハ全然博士ノ希望ヲ消滅セシムルコトトナルヘシト答ヘタルニ同博士ハ然ラハ幸ニシテ本件ハ目下懸案中ト思考セラルヲ以テ（貴信第六七九號中ノ事情ヲ係官ヨリ口頭ヲ以テ博士ニ説明セル結果ナリ）博士自身ヨリ王義之ニ對シ何トカ先方即益民儲蓄會ニ對シ示談等ノ方法ヲ執ルカ又ハ王義之ノ所有スル密山縣ノ土地ヲ先方ニ提供スル様說得シテ本件ヲ穩カニ解決スル様致スヘク尙同博士ハ王義之ニ所謂賣國奴ノ汚名ヲ被ラスコトハ希望セストテ辭去シタリ

右ノ次第ナレハ河合博士ニ於テ王義之ノ負債迄モ負擔シテ本件ヲ解決スルカ否カハ別問題トシ差當リ本件ヲ同博士及王義之間ノ直接交渉ニ委ネ一時其ノ成行ヲ俟ツコト致度シ

追テ貴信第六七九號二、中「立契年月日ハ何レモ民國七年以前ニシテ右貳萬圓ノ借用證書ノ日附タル民國八年以合ハ強ヒテ之ヲ阻止セサルコト、為シ居ルニ付貴信東拓會社ノ場合ニ就テモ右ニ依リ御處理相成度シ

804 昭和5年11月4日 币原外務大臣宛
在濟南西田總領事より
東拓對濟南電話公司訴訟事件第一審後の狀況報告
機密第五〇六號
昭和五年十一月四日
（11月13日接受）

在濟南
總領事 西田 畑一〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
東拓對電話公司訴訟事件ニ關スル件
客年十二月三十日附機密第五九五號拙信ニ關シ
一、東拓ハ本年一月借主馬官和及濟南電話公司ヲ相手取り
當地、地方法院ニ債權請求及假執行ノ訴訟ヲ提起セシ
ニ漸ク十月三日ニ至リ「債務者馬官和及連帶保證人タ
ル濟南電話公司ハ連帶シテ債務ヲ辦濟スヘン、本案ハ

本月一日日本官吏ニ韓主席ニ會見ノ際大体王農鑛廳長ニ

意ヲ喚起シ置ケリ

カ如キコト勿論ナカルヘキモ工人會等ニ於テ兎角眞相
ヲ穿タサル宣傳ヲナシ外人側勝訴スレハ其辯護士（東
拓側ノ支那人辯護士）及其審理ニ當リタル司法官迄ヲ

賣國奴呼ハリスルハ甚タ其ノ意ヲ解シ得スト述ヘタル
ニ王ハ黨部方面ニ對シテハ之ヲ禁止スルコト至難ナル
モ行政官廳トシテ種々紛糾ナル問題ヲ惹起セサル様目
下慎重ニ審査中ニシテ確タルコト判明セサルモ馬官和
ハ該借款ニヨリ博山ノ炭鑛ヲ經營セントシテ失敗セリ
ト傳ヘラレ居レリト答ヘタルニ付本官ハ更ニ當地ニ於

テハ漸次一切ノ事情明ナランモ斯ル宣傳力當地以外ノ
地方ニ傳ハランカ無用ノ誤會ヲ生シ爲ニ日支人關係
ニ種々好マシカラサル結果ヲ生スルヤモ知レス利非曲
クテハ貴國司法權ノ威嚴ニモ拘ハルコト大ニシテ斯

同公司ニ赴キ差押ヘ物件ヲ取調ヘントシタルモ重役ハ
勿論會計主任迄天津ニ赴キタリト稱シ工人等ノミニテ
責任者不在ナリトテ其ノ目的ヲ果サス一方公司側ハ假
執行ヲ不服ナリトシテ上訴セル由ニテ他方地方法院ハ
其ノ權限ニ基キ右假執行ヲ二十日間猶豫セル力更ニ同

公司側ハ株主大會ヲ開キテ之力辯^(書類)法ヲ講スル外省政府
農鑛廳（工商廳撤廢セラレ其事務ハ農工廳ニテ處理ス）
及市政府ニモ事情ヲ上申セルヤニテ省政府ヨリ假差押
執行ノ結果電話不通トナレハ公益ニ障害アルヘシトテ
本件事情取調方ヲ高等法院ニ命セシ由ニシテ他方工整
會等ノ種々ナル策動モアルニ付飽迄我方ノ權益擁護ノ
爲何分ノ御盡力相煩度ト申出タルニ付本官トシテハ合
法的ニ我方ノ權利ヲ主張スルハ當然ニシテ最近ノ機會
ニ韓主席等ニモ注意ヲ喚起スヘキモ之ニヨリ本官力支
那司法權ニ干涉云々口實ヲ作ラシムルカ如キコトハ

同公司ニ赴キ差押ヘ物件ヲ取調ヘントシタルモ重役ハ
吉田辯護士本官ヲ來訪シ同人ハ右判決ニ基キ二十九日
執行ヲ不服ナリトシテ上訴セル由ニテ他方地方法院ハ
其ノ權限ニ基キ右假執行ヲ二十日間猶豫セル力更ニ同

假執行ニ附ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トス」トノ別紙甲

^(書類)

避クル要アルニ付出來得ル限り外界ニ惡影響ヲ波及セ
シメスシテ目的ヲ達スルコト得策ナルヘシト注意シタ
ルニ同辯護士モ至極同感ニテ本件ハ頭初ヨリ示談ニテ
解決シ度キ東拓側ノ希望アリタル旨ヲ答ヘタリ
二、而テ當地漢字新聞ハ右法院判決以外ニ別紙乙號切拔ノ
通り公司側ヨリ省政府等ノ呈文及電話局工整會ヨリ總
工會ヘノ呈文ヲ掲載シ右工整會ノ呈文ハ該判決ニ對シ
イ東拓側ハ日本帝國主義ノ野心ヲ逞フシ事實ヲ捏造シ
テ我力濟南ノ電話事業ヲ侵略セントス

口東拓側ノ支那人辯護士ハ帝國主義者ノ奴隸トナレル國
賊ナリ又判事モ其後塵ヲ歩マントスル者ニシテ法院
省黨部ヲ經テ中央黨部ニ請願スル筈ナリ等ノ記事ヲ掲ケ居
レリ

三、依テ本官翌三十一日王農鑛廳長ト會見ノ際本件ニ言及
シ本官ハ貴國司法權ヲ云々スルモノニ非ラス又貴國法
院ノ措處ヲ云々スル意思毫モナク且ツ本件ハ大体合法
的ニ判決セラレタルヤニ見受ケラル、所右法院判決ニ
付スルノ外ナントノ意見モアリシニ付遂ニ東

拓側ニ於テモ止ムナク起訴シタル次第ニシテ今回ノ判
決ハ第三者ヨリ見ルモ大体公平ナルモノト思料セラル
、ニ公司側ニ於テハ該判決ニ對シ種々上申スル所アリ
又工整會等ニ於テハ盛ニ不穩當ナル宣傳ヲナセル模様
ニシテ斯クテハ貴國司法制度ノ威嚴ニモ拘ハルヘシト
考ヘラル、旨ヲ申入レタルニ韓ハ本件ニ付キテハ公司
側ヨリモ申出タルコトアルモ元來司法ニハ猥リニ容喙
スヘキモノニ非サル次第ハ承知シ居ルモ何公益機關
ノ電話ノコトニ付萬一之力爲メ一時タリトモ電話停止
ノ如キ事態發生ハ面白カラス吳高等法院長ハ法律ニモ
通シ河南省ニ在職中ヨリ嚴正ナル司法官ナルニ付工人
會等ノ勝手ナル策動ノ如キハ問題トスルニ足ラサルモ

該借款ハ馬官和個人力使用セルヤニ聞キ及ヒ目下同人
ハ大連ニ居住セル噂モアリ王廳長ヲシテ本件事情等ヲ

取調ヘシメ居レリト答ヘタルニ付該借款ハ借款ノ當初

ニ於テ公司側ニ連帶債務ヲ有セルコト借用證書ニヨリ

明力ニシテ東拓側力今回ノ判決ニ基キ行動セントスル

場合勿論公益機關タル電話ヲ^(妨)防害スルカ如キ意志ナキ

ニ工人側ニ於テ故意ニ東拓側ノ處置ニ起因スルモノト

ナシ種々排日ノ用具ニ供セントスル者ナキヤモ保シ難

キニ付此點充分御了解ノ上何等妄動ニ出テシメサル様

嚴重御取締アリタシト繰返シ置キタルニ韓モ之ヲ快諾

セリ

五、本件ハ既ニ支那側司法機關ノ手ニ移リ地方法院トシテ
ハ二十日間假執行ヲ延期シ公司側ニテハ更ニ上訴セシ
ヲ以テ本月十五日頃開廷審理スル由ナルモ右經緯一應

報告ス

本信寫送付先

在支公使、北平、青島、天津、南京

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
東拓ヲ被告トスル訴訟ヲ支那法院カ受理セルニ關ス
ル件 在哈爾賓

本件ニ關シテハ本年九月五日附機密第九六三號及同年十月
二十三日附機密第一〇六五號拙信ヲ以テ報告致シ置タルカ
本官ハ當地外交部特派員ノ回答ニ對シ今般別紙寫ノ如ク再
度抗議ヲ發シタルカ先日高等法院長ハ中川領事ニ對シ法院
トシテハ司法院ノ指令アル以上絕對ニ之ニ服從セサル可カ
ラサル立場ニ在レハ本件ニ付キテハ日本公使ヨリ直接南京
政府ニ對シ外交上ノ交渉ヲナス外途ナカルヘキ旨ヲ言明シ
居ルカ如キ事情ニ有之此上當館ヨリ嚴重ナル抗議ヲ爲スモ

結局南京政府ニ對シ帝國公使ヨリ嚴重抗議ヲ發セシメラル
ルニ非レハ當館ノ抗議モ結局效果ナカルヘシト存セラル就
テハ右事情御含ミノ上南京政府ニ對シ然ル可ク抗議提出方
御考慮相煩ハシ度右申進ス

本信寫送附先

在支公使 在北平首席 在奉天、上海、吉林

長春、齊々哈爾、滿洲里、安東、牛莊各總領事領事

……

805 昭和5年11月11日 在濟南 西田 畑一〔印〕
幣原外務大臣宛 (11月20日接受)

東拓對濟南電話公司訴訟事件における工整会
等の取締方陳市長約束について

機密第五二一號

昭和五年十一月十一日

在濟南

總領事 西田 畑一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東拓對電話公司訴訟事件ニ關スル件

本件ニ關シテハ屢次報告ノ通リナル處昨六日本官陳市長ト

在支公使、北平、青島、天津、南京

804 昭和5年11月11日 在ハルビン八木總領事より

幣原外務大臣宛 東拓の抵當權抹消訴訟について国民政府へ抗

議申入方稟申

機密第一一一一號 昭和五年十一月十一日 (11月19日接受)

昭和五年十一月十一日

在哈爾賓

總領事 八木 元八〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東拓ヲ被告トスル訴訟ヲ支那法院カ受理セルニ關ス

ル件

本件ニ關シテハ本年九月五日附機密第九六三號及同年十月
二十三日附機密第一〇六五號拙信ヲ以テ報告致シ置タルカ

本官ハ當地外交部特派員ノ回答ニ對シ今般別紙寫ノ如ク再
度抗議ヲ發シタルカ先日高等法院長ハ中川領事ニ對シ法院
トシテハ司法院ノ指令アル以上絕對ニ之ニ服從セサル可カ
ラサル立場ニ在レハ本件ニ付キテハ日本公使ヨリ直接南京
政府ニ對シ外交上ノ交渉ヲナス外途ナカルヘキ旨ヲ言明シ
居ルカ如キ事情ニ有之此上當館ヨリ嚴重ナル抗議ヲ爲スモ

會見ノ際本件ニ言及シ韓主席等ニ申入レタルト同様ノ話ヲ
述ヘ工會等不穩當ナル言動ニ對シテハ嚴重取締方ヲ申入レ
タルニ同市長ハ本件ハ已ニ司法機關ニ移リタル問題ナルヲ
以テ當方ニテハ之ニ依リ當地電話ニ障害ヲ來サヘル以上何
等干涉スルヲ得サル次第ナルカ地方法院トシテハ假執行ヲ
許可セシ際ニハ公用機關タル電話業務ニ直接影響ヲ來スヤ
モ計リ難キニ付一應監督官廳タル市政府ニ通知アルヘキ筈
ナルニ付何等通知ナク突然實行ヲ爲サントセシカ如キハ手
落ナリシト考ヘ居レリ本件ニ關シ公司側ヨリ種々申出アリ
タルモ市政府トシテハ司法問題ハ何等干涉スルヲ欲セサル
ニ付電話業務ニ停止其他ノ障害ヲ來サヘル限りハ何等措置
ヲ執ル意ナシト公司側ニ申聞ケ置ケリ又工會等ノ勝手ナル
言動ニシテ治安ニ障害アル場合ハ充分取締ルヘシト述ヘタ
ルニ付本官ハ東拓側トシテモ當地ノ電話ヲ妨害スルカ如キ
意志毛頭無カルヘク要ハ該貸金ノ償還ヲ得レハ目的ヲ達ス
ルワケナリト可然應答シ置ケリ

右報告ス

本信寫送付先

806 昭和5年11月13日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

治外法權、租界返還などの交渉にも積極的に
応すべき旨意見具申

上 海 発
本省 11月13日後着

公第一〇八一號(極秘)

(欄外記入)
民國今後ノ政局ニ付テハ大体報告濟ノ通ナルカ南京ニ於ケル第四次全体會議終了後ハ南京政府ハ直ニ對外交渉ニ力ヲ

注キ其ノ職ニ止マルヘク豫想セラレ居ル王正廷ハ從來ノ行

懸ヲ以テ極力法權問題其ノ他ノ交渉促進ニ力ムヘキハ言フ

ヲ俟タス我方トシテハ南京漢口事件債務整理等ノ解決ニ努

ムヘキハ勿論ナルモ是等ノ問題ノ解決ヲ見スンハ支那側ノ

要求スル諸問題ノ交渉ニ應セストノ態度ヲ執ルニ於テハ却

テ我方ノ欲スル右諸案件ノ解決ニ惡影響ヲ及ボスノミナラ

ス又々日華双方ノ關係行詰リノ狀態ヲ現出スル事トナルヘ

ク憂慮セラル日華兩國側ノ考フル處ハ今日多大ノ懸隔アリ

民國側ノ態度ハ要スルニ往電公第一〇二六號蔣介石ノ意見

ヲ以テ代表的ト見テ然ルヘク即チ他國ヨリ好意ヲ以テ接シ

來ルニ於テハ感謝ノ念ヲ以テ之ヲ迎フルモ民國側ニ於テ進

ソテ他國ノ好意ヲ得ル爲ニ努力スルノ必要ヲ見スト謂フニ

アリ我方トシテハ此ノ上トモ右民國側ノ態度改善指導ニ努

力スルハ勿論ナルモ兎モ角出來得ル丈ケ寛容ノ態度ヲ以テ

問題等ノ交渉ニモ應シ特ニ荒廢セル租界ノ返還ノ如キ民國

側ヨリ餘り論及セラレサル間ニ一ツニテモ交渉ニ入ルコト

トシ漸ヲ逐フテ國際關係ノ一層改善ニ努ムルニ於テハ日華

ノ困難ナル關係モ次第打開シ行クコト不可能ナラサルヘシ

此ノ除右特ニ申進ス

(欄外記入)
至急守島ニ再回

807 昭和5年11月25日 在濟南西田總領事より
幣原外務大臣宛

高等法院が東拓對濟南電話公司訴訟事件の第

一審假執行判決を取消通達について

(12月3日接受)

昭和五年十一月二十五日

在濟南
總領事 西田 畑一
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
東拓對電話公司訴訟事件ニ關スル件
本月四日附機密第五〇六號ノ拙信ニ關シ地方法院ニ於テハ假執行ヲ二十日間猶豫シ他方電話公司側ヨリハ高等法院ニ對シ本訴訟事件ノ外地方法院ニ於ケル假執行ノ判決ニ對シテ上告ヲナセシ爲同法院ニテハ本月三日ニ開廷審理スヘキ筈ナリシ處斯クテハ送達ノ期日モナキコトハナルヘシトテ同月十五日ニ延期シ右天津東拓會社出張所ヲ經テ吉田辯護士ニモ通知シ來タレル趣ナルカ去ル二十日香川支配人及吉タルニ已ニ十五日高等法院ニ於テ缺席裁判ヲ以テ地方法院ニ於ケル假執行ノ判決ヲ取消シタル旨通達アリタリ然ルニ

地方法院ニ於ケル本件審理ノ際ハ電話公司側缺席ノ爲メ二回延期シ漸ク第三回目ニ開廷審理セルニ今回ハ法院ヲ異ニ件

一方本件和解方ニ關シ電話公司側ニ立テル辯護士ヨリハ馬官和ノ關係セル博山鑄山等ノ資產ヲ以テ之力借款整理ニ充當スヘキヲ申出テ來レルモ東拓側トシテハ右カ電話公司側直接ノ申出テナルニ於テハ何ントカ考慮スヘシト可然應酬シ居レル由ナリ

本件ハ結局當地高等法院ニ於テ審理セラル、コトハナルヘシト思料セラル、處本官トシテハ其後主席代理タル李民政廳長王農鑄廳長陳市長ト會見ノ際高等法院ニ於テハ吉田辯

護士病氣ノ爲出頭シ得サル通知ニ對シ副代理人ヲ出スヘキ旨ノ通達ヲ出シタルカ同辯護士ハ青島法院ヲ經テ十八日ニ受領シ來濟ノ際ハ已ニ十五日ニ缺席裁判ヲナセル由ナルト

借款契約面上明ニ署名捺印セル董事等迄カ該借款ヲ承知セスト上告書ニ明カニ否認申立て居ルハ頗ル奇怪ニシテ嚴密ニ調査ノ要アルヘキヲ述ヘタルニ李廳長等ニ於テモ本件ハ

頗ル難問題ナルカ法院側ニ於テ慎重審理スル外ナキ旨ヲ述ヘ王廳長ノ如キモ可然和解シ得ラルレハ好都合ナリト考へ

居レル由ヲ内話シタルニ付本件和解ハ電話公司側ニ於テ全然否認セル以上如何トモナシ難キ次第ナレハ貴方ニ於テモ電話公司側ニ對シ和解セシムル様措置セラルコト至當ナルヘシト答ヘ置ケリ

尙ホ高等法院ニ於ケル地方法院假執行判決取消文別紙^(省略)甲號切抜及電話公司側ノ上告理由書同乙號切抜添付セルニ付御

查閱相成度シ
本信寫送付先

在支公使、北平、青島、天津、南京

808 昭和5年11月25日 在濟南西田總領事より
幣原外務大臣宛

日中間の民刑事件に際し中國人が被告の場合地

方法院への提訴が多くなりつつある状況報告

(12月4日接受)

機密第五四三號 昭和五年十一月二十五日

在濟南

總領事 西田 畑一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

華洋訴訟事件ニ對スル改正辦法規定ニ關スル件

本件ニ關シ濟南市長陳維新ヨリ九月廿三日附公文ヲ以テ各省交渉署撤廢後ノ華洋訴訟事件受理方ニ付キテハ曩キニ外交部ヨリ訓令ノ次第アリシカ今回右取扱手續補充ノ爲改正辦法二ヶ條ヲ規定セル旨山東省政府民政廳ヨリ訓達有之タルニ付貴國在留民ニ通知方取計アリ度旨別紙^(省略)寫(譯文添付)ノ通り照會越アリタリ右改正ノ要點ハ

一、各省交渉署撤廢前ニ受理シ未解決ノ華洋訴訟控訴事件ハ高等法院又ハ其ノ分院ニテ處理ス

二、各省交渉署撤廢後ニ提起セル華洋訴訟ハ通常ノ裁判ノ右不取敢報告ス

本信寫送付先
在支公使、北平、青島、南京、芝罘、張店、博山、坊子間ノ民刑事件ニシテ被告中國官廳ニアラサル中國人ノ場合ハ漸次中國法廷ニ訴訟提起ニヨリ措置スルコト多キニ至ルヘシト認メラル將又本件ハ外交部ヨリ代理公使ニ照會シ置キタル趣ニ付當館ニテハ回答ヲ見合ハセ置ケリ

右不取敢報告ス
本信寫送付先

在支公使、北平、青島、南京、芝罘、張店、博山、坊子

之ヲ當地ノ實情ニ微^(省略)スルニ從來日支人間ノ繫争問題ニシテ
支那人ヲ被告トスル場合ハ當館ヨリ支那官憲タル交渉員其他ノ地方官憲ニ交渉シ又右交渉ニテ解決シ得サルモノハ支那法院ニ直接起訴セシメ來タリタルカ昨年末交渉員撤廢後

ハ省政府主席或ハ市長等ノ關係地方官ニ對シ交渉シ居ル處從來トテモ殊ニ昨年末頃ヨリ支那側ハ事件ノ性質ニ依リ法院ニ訴訟提起方ヲ申出ツルコト多キニ付便宜ノ措置トシテ

交渉事件トセス法院ニ直接訴訟ヲ提起シ其ノ判決ニヨリ處理スルコトアリトスルモ當館ニ於テ省政府又ハ市政府等ニ

提起スル者アリトスルモ當館ニ於テ省政府又ハ市政府等ニ對スル交^(省略)權利ヲ放棄スルモノニアラサルモ今後日支人

東拓の抵當權抹消訴訟に対し意見具申
(12月5日接受)

昭和五年十一月廿八日 在中華民國

臨時代理公使 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東省特別區域法院ニ於テ東拓ヲ被告トスル抵當權抹消申請ニ關スル訴訟事件ヲ受理シタルコトニ關スル件

東洋拓殖會社ヲ被告トシテ露國人ヨリ提起アリタル抵當權

抹消ノ訴訟ヲ東省特別區域法院カ受理シタルコトニ關シ客
月二十三日附機密第一〇六五號閣下宛公信ヲ以テ哈爾賓總
領事ヨリ本件ニ關シ屢次東省特別區域法院側ト折衝シタル
モ地方的ニ本件ヲ解決スルコト困難トナリタルニ付此ノ上
ハ南京政府ニ提議ヲ爲スヨリ致方無シトノ趣旨ノ報告アリ
タル處元來中國ニ在ル土地ニ關スル權利關係ハ租界外土地
ノ場合ハ勿論租界内土地ノ場合ニ於テモ極メテ複雜ニシテ
適用法規其他ニ關シ疑義少ナカラス從テ土地權利ノ保全ノ
目的ヲ以テスル登記其ノ他ノ手續モ各地一樣ナラサル情況
ニ在リ從テ土地制度ニ關スル爭ハ一定セル法律解釋又ハ慣
行ヲ楯トシテ決定シ難キ場合多ク本件ニ關シテモ中國側ヲ
納得セシムルニ足ル解決方法ヲ見出スコトハ相當困難アリ
ト認メラル次第ナリ。本件ニ關スル中國法院及同法院側
ノ見解ハ事件カ中國法ニ依ル登記ノ問題ナルニ依リ右ニ關
スル裁判權ハ當然中國側ニ在リト爲スモノニ有之帝國臣民
カ土地權利擁護必要上止ムヲ得スシテ爲シタリトハ謂ヒ一
旦中國法院ニ登記シタルモノナル以上其ノ保護ヲ期待セル
限度ニ於テ登記官署ノ權力行爲ヲモ容認セサル譯ニハ行カ
サルヘク中國側ノ言分ニハ相當ノ理由アルモノト認ムルモ

帝国臣民力領事裁判權ノ下ニ於テ我方法規ノ定ムル諸手續
ヲ踏ミタル上ハ更ニ中國人ニ對スル權利公示ヲ完全ナラシ
ム目的ヲ以テ念ノ爲ニ中國法ニ依ル登記ヲ爲シタルコト
ヲ理由トシ恰カモ土地登記ニ關スル限り被告主義ニ依ル領
事裁判ノ權利迄モ拋棄シタルカ如キ取扱ヲ中國側ヨリ受ク
ルコトハ我方トシテ忍ヒ難キ處ナルノミナラス登記ナルモ
ノハ本來一ノ權利公示ノ方法ニ過キスンテ夫レ自身ニテ存
立ノ理由ナク實體的權利義務ニ追從シ其ノ背景ノ下ニ始メ
テ法律的意義ヲ有スルモノナルカ故ニ登記ハ登記簿上ノ記
載其ノ者ニ付正誤等ヲ爲ス場合ノ外ハ單獨ニテ訴訟ノ目的
トナルコトヲ得サルモノナル次第ニ鑑ミ中國側カ登記抹消
申請ヲ登記法上ノ問題トシテ其ノ儘受理シ登記ノ先決條件
タル實體的權利義務ノ關係ニ迄立入り裁判スルコトハ越權
ノ行爲ト謂ハサルヘカラス。而シテ手續上ノ問題トシテ本
件處理方ヲ考究スルニ中國法ニ依ル中國法院ニ於ケル登記
ノ記載ハ中國法院ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナ
ルカ故ニ登記簿上ノ記載ニ關スル限り常ニ中國側ノ權限ヲ
承認セサルヘカラス從テ我方ニ於テ實體法上ノ權利關係ヲ
裁判スルニ當リ登記關係ヲ證據トシテ調査スル必要アルニ

於テハ中國法院ニ對シテ司法共助ノ方法ニ依リ援助ヲ求ム
ノ要アルニ至リタルトキハ我方裁判所ヨリ右判決ヲ中國法
院ニ通報スルト共ニ利害關係人ヨリ更ニ中國法院ニ登記訂
正ノ申請ヲ爲サシムルコトヲ要スルコトナルヘシ。事情
如上ノ通ト認メラル處此ノ點ニ關シテハ我方ヨリ先方ニ
對シ充分意見ヲ述へ居ラサル様ニモ見受ラルニ付本件解
決方ニ關シ再應哈爾賓總領事ヨリ東省特別區域法院側ト交
渉ヲ行ヒ前陳ノ趣旨ヲ適宜説明シテ先方ノ反省ヲ促カスコ
ト可然ト思料ス。此段専見申進ス

本信寫送付先 北平 哈爾賓 南京 奉天 吉林 長春

齊々哈爾(音カ) 滿州里 牛莊 安東 鐵嶺

~~~~~

810 昭和5年12月16日 在吉林石射總領事より

幣原外務大臣宛

華洋裁判取扱変更に關し至急対応策決定のた  
め回示方稟請

(12月24日接受)

七 雜 件  
機密公第八五六號  
昭和五年十二月十六日

ク迄モ反対セサルヲ得スト答ヘタル處施ハ日本側トシテハ左様アルヘキコト勿論ナルヘキヲ以テ結局省政府ヨリ右取扱變更ト條約トノ關係如何ニ付中央政府ノ見解ヲ伺出ツル外ナカルヘシト思考スト談リ居タリ

惟フニ此種事件力從來交渉署側トノ折衝ニ依リ片付キ得タルハ領事館ヨリノ交渉力支那官民間ニ傳統的ニ相當權威アルモノト認メラレ居リタルニ因ルモノナリ然ルニ今ヤ人民側ニ於テ公然之ヲ忌避シ縣知事モ亦其處理ヲ敢テセサル狀勢ヲ馴致スルニ至リタルハ全ク中央政府ノ前記ノ如キ決定ニ基クモノナル以上之力是正ニハ矢張リ右決定ヲ取消サシムル外ナキコト明カナリ。然シ乍ラ右取消ヲ急速ニ應諾セシメ得サルモノトセハ本邦人側當事者ノ事件未解決ニ依ル苦痛ト損害トハ甚タ大ナルモノアリ且ソ其間ニ假裝破產ノ企テラルル虞ヲモ充分考慮セサルヘカラス

施主任ハ右ニ關スル過渡的辦法トシテ當方ヨリ申入レノ交渉案件ヲ法院ニ差廻シ受理判決セシメテハ如何トノ私案（本官ハ天津ニテハ從來此手續ニ依リ居ルモノト承知ス）ヲ有シ居レルカ當地ニ於ケル地方高等兩法院ハ當館ト吉林辦事處トノ共同的審查ニ依ル判斷ヲ充分ニ尊重ストノ諒解

811 昭和5年12月18日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 十二月十七日の政治會議で外僑訴訟實施弁法

#### 原則通過との情報について

南京 12月18日前發  
本省 12月18日前着

第九二六號

謀報者ノ報告ニ依レハ十七日ノ政治會議ニ於テ外僑訴訟實施辦法ノ原則ヲ通過シ王正廷及王寵惠ヲ力實行委員ニ選定セル趣ナルカ右辦法ノ内容ハ大体左ノ如キモノナル由

第一條、中國在留外國人及中國人相互間ニ發生スル訴訟案件ハ總テ中國法院ノ審理ニ歸シ地方法院ヲ起訴機關トシ高等法院ヲ上訴機關トス租界内ニ於テ發生セル案件ハ租界ヲ回収スル迄中國ハ南京天津上海漢口廣東各地ニ特區法院ヲ設ケ外人ノ訴訟案件ヲ受理セシム

第二條、特區法院ニハ法律ニ精通シ各國ノ習慣ヲ熟知セル外國人若干名ヲ適宜傭聘シテ顧問ト爲ス其ノ職權ハ裁判官ニ對シ意見ヲ述ヘルニ止マリ裁判又ハ判決ニ干涉スルコトヲ得ス

サエ成立セハ右過渡辦法ハ少クトモ事理明白ナル事件ニ關スル限り必スシモ本邦人側ノ不利益ヲ招來スルモノナリトモ云ヒ難シ

尤モ右過渡辦法モ萬善ヲ期シ得サル點アルノミナラス支那力着々條約上ノ非違ヲ敢テシテ所謂國權恢復ニ猛進セントシ居ル此際之ヲ先方ニ許スコトハ目前ノ小利ノ爲メ大局上更ニ一步ヲ讓ルノ結果トナルヘキハ明カニシテ最善ノ途ハ國民政府ヲシテ直チニ前顯決定ヲ取消サシムルニ在ルコト申ス迄モナキ處他館ニ於テモ恐ラク同様事態ニ逢着シ若クハ逢着セントシツツアルヘク此儘ニ放任スルトキハ彼我兩方共ニ動キノ取レサルコトナルヤ必然ニシテ此際ニ於テ何等適當ノ措置ヲ講スルノ要アリト思考セラレ而カモ當館ニハ目下他ニ差掛リタル三四ノ同種事件アリ至急對應策ヲ決定シ度キニ付本省ノ御意向折返シ特ニ電報ヲ以テ御回示ヲ仰度ク右報告旁々稟請ス

本信寫送附先 在支公使

南京 北平 天津 奉天 赤峰 長春  
哈爾賓 齊々哈爾 間島 在間島各分館

812 昭和5年12月18日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

編注 当該箇所に「第三條、刑事ニアリテハ中國新刑法ニ依リ（？）」との書き込みあり。

華洋裁判取扱變更に関する省政府訓令について  
(12月24日接受)

昭和五年十二月十八日

在吉林

總領事 石射 猪太郎 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

華洋裁判取扱變更ニ関スル件

昭和5年12月19日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛

ハルビンにおける土地制度等の調査終了後回

訓について

付記 昭和六年二月三日付在ハルビン八木総領事

より幣原外務大臣宛機密第一二〇号公信

「東省特別區域法院ニ於テ東拓ヲ被告トス

ル抵當權抹消申請ニ關スル訴訟事件ヲ受理

シタルコトニ関スル件」

本件ニ關シテハ十二月十六日付機密公第八五六號往信ヲ以テ報告旁々稟請ノ次第アル處當省政府ヨリ主席張作相ノ名ヲ以テ管下各方面ニ發シタル本年八月十日付訓令文謀者ヲ介シ本日入手シタルカ其譯文左ノ如ク右ニ據レハ遼寧特派員ヨリ奉天總領事宛申入ノ趣旨トハ幾分ノ相違アリ（其後司法院ニ於テ追補決定シタルニ因ル）第一審モ法院若クハ司法ヲ兼理スル縣長ニ於テノミ受理スヘキ旨明定セラレアリ

尙本件ニ關シ支那側ヨリ當館ニ對シ未タ何等正式ノ申越ナキコトハ前顯拙信ニ依リ御諒知ノ通ナリ

爲念右訓令原文寫相添右報告ス

本信寫送附先 南京 北平 天津 奉天 赤峰 長春  
哈爾賓 齊々哈爾 間島  
在間島各分館

昭和五年十二月十九日  
条機密第一四八號

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在中華民國臨時代理公使 重光 葵殿

東省特別區域法院ニ於テ東拓ヲ被告トスル抵當權抹消申請ニ關スル訴訟事件ヲ受理シタルコトニ關スル件  
本件ニ關シ客月二十八日附貴信公第三〇八號ヲ以テ御來示ノ點ニ關シテハ當方ニ於テモ大体貴見ニ同感ナルモ實際上及理論上猶研究シ置キ度キ點（例へハ哈爾賓ニ於ケル土地制度及登記制度ノ實情並ニ外國人ハ土地所有權ヲ享有シ得

サル場合ニ於テ土地ニ對スル抵當權ヲ享有シ得ルモノナリヤ又土地ニ關スル事件ニ對スル我方裁判權ノ範圍等）モアルヲ以テ其ノ研究ヲ俟チ追テ何分ノ儀申進スヘキニ付右ニ御了知相成度シ

本公司信寫送付先 哈爾賓

（付記）

機密第一二〇號

昭和六年二月三日

在哈爾賓

總領事 八木 元八 [印]

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東省特別區域法院ニ於テ東拓ヲ被告トスル抵當權抹消

申請ニ關スル訴訟事件ヲ受理シタルコトニ關スル件

本件客年十二月十九日附條二機密第一六二號貴信御來訓當

地方ノ土地問題實情參考事項ニ關シ

一、土地制度及登記制度ノ實情又土地ニ關スル事件ニ對スル我方裁判權ノ範圍ハ客年十二月十九日附機密第一二

五一號拙信附屬十一月八日調製東支鐵道附屬地管理問

813

昭和5年12月19日 在中國重光臨時代理公使宛

ハルビンにおける土地制度等の調査終了後回

訓について

付記 昭和六年二月三日付在ハルビン八木総領事

より幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛

「東省特別區域法院ニ於テ東拓ヲ被告トス

ル抵當權抹消申請ニ關スル訴訟事件ヲ受理

シタルコトニ關スル件」

(1)借用證書ニ記載スル金額ハ必ス哈大洋タルコトトサレ  
アリ若シ日本金圓或ハ現大洋又ハ外國貨ヲ以テ表示ス  
ル場合ハ公證人ハ之ヲ受理セス  
(2)公證ノ場合ハ債權者債務者共ニ公證處ニ出頭シ公證人

力兩者ヲ知リ居ル場合ハ此事無キモ一方又ハ兩者共未  
知ノ場合ハ孰レニ對シテモ各二名ノ中國人保證人ヲ立  
ツヘキコトヲ要求サルモノトス

(二)公證ニ際シテ公證人ハ借用證書ノ外ニ地券（舊露文地  
券即チ東鐵土地課發給土地貸下契約書又ハ新中國文地  
券即チ東省特別區地畝管理局發給租地照）及地方法院  
登記處保存登記證明書ヲ要求ス

登記申請人ハ前記公證ヲ取付ケタル後法院登記處ニ於テ  
發賣スル抵當權設定登記申請書用紙ヲ購入シ公證ヲ了シ  
タル借用證書ト地券並保存登記證明書ヲ申請書ニ添付登  
記處ニ申請スルモノニシテ公證ヲ了シタル以上ハ登記處  
ハ簡單ニ之ヲ登記スルヲ例トス

然ル處當地一般邦商ハ金建取引ニシテ哈大洋勘定ヲ有セ  
ス若シ前記(ロ)ノ信用證書記載金額ヲ哈大洋タルヘシトサ  
レアル如ク哈大洋建借用證書ヲ以テ貸付ヲ行フ場合ハ恰  
モ哈大洋ノ思惑賣ヲ爲スト等シキ結果ニ陥リ相場ノ變  
動ニ依リ蒙ル危險甚シキコト又假リニ當事者間ニ於テ別  
契約ニ依リ一定ノ哈大洋ノ換算相場ヲ定ムルトスルモ債  
務者ニ於テ契約不履行ノ場合ハ結局無意味ニ終リ且又擔  
保物件ノ整理方法トシテ爲サル競賣ニ當リ治外法權國  
人ナルノ故ヲ以テ競賣ニ參加ヲ拒ミ競落ヲ許可セサル最  
近ノ事情ニ鑑ミニ萬一債權者以外ニ競買希望者無キ場合擔  
保物ハ何時迄モ處分スルヲ得サル破目ニ陥ルヘキニツキ  
現下ノ狀態ニテハ不動產抵當ニヨル金融ハ全ク不可能ナ  
ルモノノ如シ

右報告ス

本信寫送附先 在中華民國公使

814 昭和5年12月20日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

債務者から我が方に河合鈴太郎所有債權差押  
え阻止援助方要請について  
(1月8日接受)

815 昭和5年12月25日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛

機密第八七六號  
昭和五年十二月二十日  
在吉林  
總領事 石射 猪太郎〔印〕  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
支那人王義之關係土地差押ニ關スル件

本件ニ關シテハ十月九日付亞一機密第一二〇號貴信ヲ以テ  
御來示ノ次第アリタル處其後王ヨリ曩ニ差押ラレタル分以  
外ノ土地ヲモ更ニ差押ヘラルニ至リタル趣ニテ適當ナル  
措置ヲ望ム旨申出アリ館員ニ於テ本件ニ關シテハ當館トシ  
テハ王ノ爲メニ既ニ出來得ル丈ケノ方法ヲ盡シ相當效果ヲ  
モ見タル次第ト信シ最早ヤ一段落ヲ告ケ居ルモノト認メ居  
リ此上更ニ何等措置ニ出ツルコトハ外務省ヨリノ命令ニ依  
ルカ若クハ河合氏ヨリノ直接頗出ヲ待ツヘキモノニシテ支  
那人タル王ノミノ申出ニ依據スル譯ニハ行カス此點充分分  
合氏ニ通シ置ク方然ルヘキ旨篤ト說示シタルニ王ハ善ク其  
意ヲ解シ引取りタル趣ナリシカ十二月十八日ニ至リ法院ニ  
於テ右差押土地ヲ取上ケントシツツアル處王旅行不在中ナ  
ルニ付當館ノ指示ヲ受ケタキ旨王ノ留守宅ヨリ當館宛來書  
アリタルヲ以テ、翌十九日留守居ノ者ヲ呼出シ早速王ヲ旅  
行先ヨリ呼ヒ返シ適當措置ヲ講スル様諭シ置キタリ

右報告ス  
追テ前記事情ハ本省ヨリ河合氏へ御示達置キ相成ル方然  
ルヘキカト思考ス爲念

七 雜 件  
1013

815 昭和5年12月25日 在漢口坂根總領事より  
幣原外務大臣宛

司法制度運用上の欠陥に関する湖北高等法院  
長の談話について  
(1月8日接受)

機密第一一四二號  
昭和五年十二月二十五日  
在漢口  
總領事 坂根 準三〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
湖北省ニ於ケル司法制度運用不始末狀況ニ關スル  
湖北高等法院長ノ談話報告ノ件

湖北高等法院長ノ談話報告ノ件  
湖北省ニ於ケル司法制度運用不始末狀況ニ關スル  
用狀況トシテ新聞記者ニ對シ大要左ノ通り談話セル旨當地  
新聞ハ傳ヘ居ル處責任アル司法官ニ於テ敢テ誇張妄言ヲ弄  
スル筈ナキヲ以テ右ノ談話ハ司法運用ノ現況ト監獄ノ狀態  
トニ付何等ノ粉飾ヲ加ヘス忌憚ナク説明シタルモノト見ル  
ヲ得ヘク國民政府ニ於テ領事裁判權ノ撤廢方ヲ列國ニ要求  
シツアル折柄右ハ如何ニモ皮肉ノ感ヲ禁スル能ハサルモ  
ノアリ即チ

一、湖北省ニ於ケル「正式法院」（軍事裁判所以外ノ法廷

ヲ指スモノナラム）トシテハ當高等法院ノ外ニ高等法

院分院二ヶ處ト地方法院六ヶ處アリ成績ハ先ツ良好ノ

方ナルモ(イ)法律（ノ威嚴）ヲ維持スルノ廉白サ、(ロ)手

續ノ迅速、(ハ)「應酬」（饗應又ハ買收ノ意）ノ謝絶、

(ニ)「紛華」（紛糾及面倒）ノ回避等ノ諸點ニ付テハ當

「整頓」ノ餘地アリト認ム

二、各縣ニ於ケル司法ハ完全ニ獨立ノ保障アルヘキ筈ナル

モ司法ヲ行政ト分離スルコトハ事實上甚タ困難ナリ是

レ世人ノ爲太シク非難セラル、原因ニシテ實ニ左ノ如

キ各種ノ惡弊猶存在シ居リ之ヲ語ルサヘ苦痛ヲ感スル

次第ナリ即チ

(イ)審判委員ノ或者ハ劣紳ト應酬交際シ或者ハ地位ヲ利

用シテ親戚友人ヲ「委任」（官職ヲ與フル意）シテ

之ニ金錢出納ヲ司ラシメ、

(ウ)「文吏」「警吏」中ニハ罰金ヲ利用スル者アリ、又

收入ヲ不當ニ増加シテ私腹ヲ肥ヤス者アリ、供述ヲ

偽造スル者アリ、賄賂ヲ要求スル者アリ、地方ニ取

調ノ爲出張セハ訴訟當事者ヨリ所謂草鞋錢ヲ取り、

審問スレハ事務手數料ト力起訴費等種々雜多ノ名義

ヲ附シテ訴訟人ヨリ金錢ヲ擰取スル者アリ

三、武漢ニ於ケル監獄ハ軍憲ノ管轄ニ屬スル分ヲ除キ湖北

省第一監獄ト湖北省第二分監ノ二ヶ處ノ外ニ尙武漢看

守所ニケ處アリ建物ハ稍清潔ニシテ待遇モ往時ニ比ス

レハ稍改良セラレタル點アルモ衛生及教誨ノ點ニ於テ

ハ尙充分改善ノ必要アリト認ム

各縣監獄所ニ至リテハ昔日通り舊式ニシテ其ノ「腐敗」

ハ實ニ堪フヘカラサルモノアリ即チ建物ハ暗黒ニシテ

空氣ノ流通惡シク食料、衛生、雜髮、沐浴等ハ少シモ

注意セラレ居ラス、監獄トシテ必要ナル工場ト教室ノ

設備全然ナク、獄吏ハ囚徒ヲ肆ニ虐待シロ實ヲ設ケテ

金錢ヲ要求シハ食量ヲ減少シテ政府ヨリ支給スル囚

徒ノ食費ヲ私腹スル等監獄ハ金贏ケノ場所ト心得居ル

奸吏少カラス云々

右何等御参考迄報告申進ス

本信寫送付先 代理公使、北平、上海、天津、奉天、

青島、廣東、南京

### 3 中國沿海漁業・密輸問題

816

昭和5年1月18日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

上海航業公会が日本漁船の中國沿岸操業に抗議について

第六五號

十八日ノ中央日報ニ依レハ外交部ハ上海航業公會ヨリ最近日本漁船博多丸外十餘隻カ黃海ニ面スル支那沿海ニ於テ勝手ニ公然漁業ニ從事セルハ不都合ニ付今後再ヒ支那領海ニ於テ漁獲ヲセサル様日本政府ニ嚴重交渉アリタシトノ申出ニ基キ農工部ニ對シ日本漁船ノ漁業權侵害ニ關スル種々ノ事實詳細查報方沿海各省ニ通令方依頼セル趣ナリ

件支、上海、天津、青島、漢口、廈門ヘ轉電セリ

817 昭和5年2月(5)日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

内河航行権回収と中國内航業統一のため浙江省航政局新設について

818 昭和5年2月7日 在杭州米内山領事代理より  
幣原外務大臣宛

内河航行権回収と中國内航業統一のため浙江